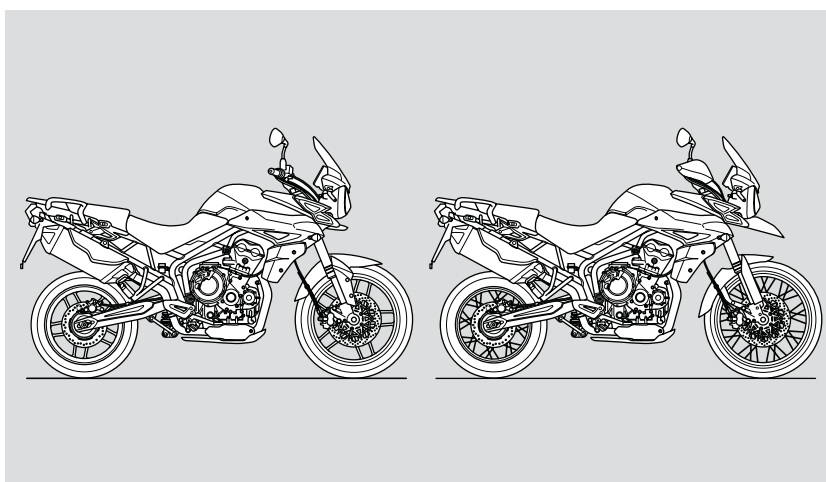


はじめに

はじめに

本取扱説明書は、Triumph Tiger 800 および Tiger 800XC モーターサイクルについて解説したものです。この取扱説明書は、常にモーターサイクルと共に保管し、必要な時はいつでも情報を得るために参照してください。



警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：



警告

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。



注意

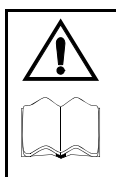
この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。

はじめに

警告ラベル



モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行ったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、10ページとページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウェブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

オフロードでの使用

Tiger 800XCはオンロードおよびライトオフロード走行用に設計されています。

Tiger 800 はオンロード走行専用設計されています。

はじめに

取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。

Triumph社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は貴地のディーラーからも入手できます。

- ・ イタリア語
- ・ 英語
- ・ オランダ語
- ・ スウェーデン語
- ・ スペイン語
- ・ ドイツ語
- ・ フランス語

警告

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

Triumph との絆

お客様との関係は、Triumph購入の時点で終わるものではありません。弊社製品を購入されたお客様に、その後体験されたことをフィードバックしていただくことは、製品開発とサービス向上に極めて重要です。正規販売店にお客様のメールアドレスをお伝えいただき、登録をお願い申し上げます。お客様のメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査書を送信いたしますので、フィードバックをお願い申し上げます。

Triumph チームより。

はじめに

情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。

Triumph Motorcycles Limited の書面による許可なく、本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

© Copyright 10.2010 Triumph Motorcycles Limited, Hinckley, Leicestershire, England.

出版部品番号 3855193 第1版。

目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていきますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

はじめに	1
警告ラベル	10
部品の名称	12
シリアルナンバー	17
一般情報	19
モーターバイクの運転	55
アクセサリ、積載条件、同乗者	67
整備と調整	71
保管	119
仕様	121

はじめに－安全第一

モーターバイク

⚠ 警告

Tiger 800XCはライトオフロード走行用に設計されています。過酷なオフロード走行をした場合、モーターサイクルが制御不能となり事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

Tiger 800 はオンロード走行専用設計されています。オフロード走行には適しません。
オフロード走行をした場合、モーターサイクルが制御不能となり人身事故を引き起こす恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び/又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

本モーターサイクルは、ライダーを単独で、またはライダーと同乗者一人と一緒に運べる二輪車として使用するよう設計されています。

ライダー、(ある場合は) 同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、以下の最大車載限度を超過してはなりません。

Tiger 800 - 225 kg

Tiger 800XC - 223 kg

⚠ 警告

本モーターサイクルにはエンジン下に触媒コンバーターが取り付けられており、エンジン作動中、触媒コンバーターは排気装置とともに非常に高温に達します。排気装置および触媒コンバーターの一部に草や干し草、麦わら、葉、衣類や荷物といった可燃物が接触すると、発火する恐れがあります。排気装置や触媒コンバーターには、可燃物を絶対に接触させないでください。

はじめに－安全第一

燃料と排気ガス

⚠ 警告

ガソリンは非常に可燃性の高い物質です：

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィルターキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

⚠ 警告

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

ヘルメットと防護服

⚠ 警告

モーターバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、ブーツ、防護メガネ、グローブ、(膝と足首まわりがフィットする)ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

⚠ 警告

頭をケガから守ってくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。



はじめに—安全第一

駐車

⚠ 警告

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください：

モーターバイクのスタンドが上がって転倒するのを防ぐため、ギヤをファーストに入れます。

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

部品とアクセサリー

⚠ 警告

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

はじめに－安全第一

整備 / 装備

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規 Triumph デイラーに相談してください。

正しく機能していないモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

⚠ 警告

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合があります。不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

⚠ 警告

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規 Triumph デイラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

ライディング

⚠ 警告

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモーターバイクを運転することは危険であり、モーターバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

はじめに－安全第一

！ 警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

！ 警告

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- ・ 通過する車両からの横風
- ・ 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- ・ 悪天候
- ・ ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

！ 警告

危険な角度まで横傾斜するとモーターサイクルが不安定な状態になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

ハンドルとフットレスト

！ 警告

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの操縦性と安定性に悪影響を及ぼし、バイクをコントロールしきれなくなつて事故を引き起こす結果になりかねません。

！ 警告

走行中は、ライダーも同乗者も常にフットレストに足をかけていなければなりません。

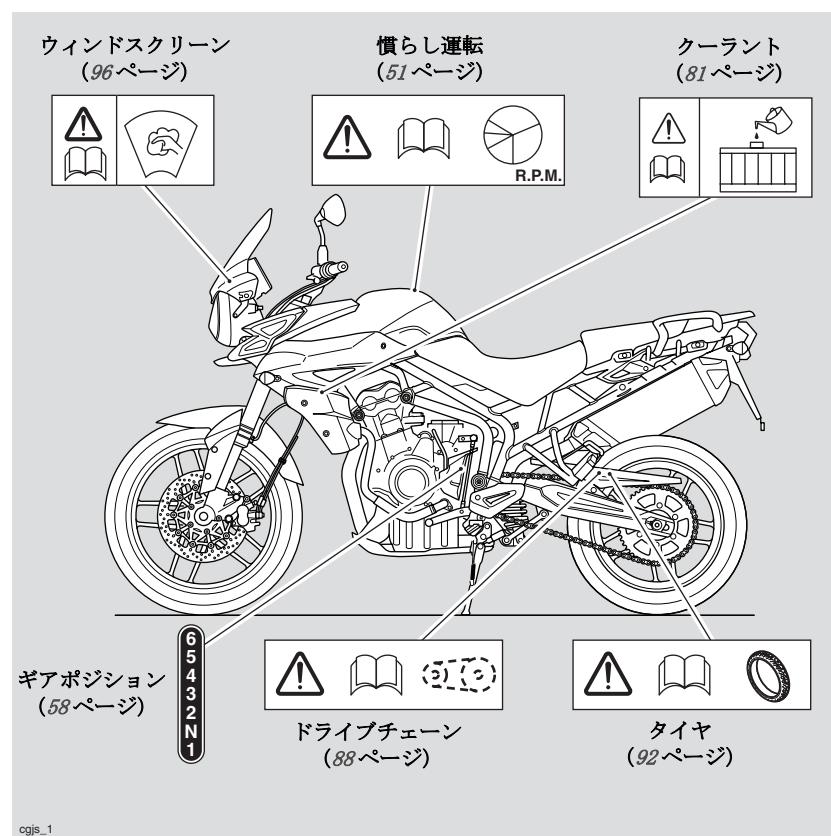
フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

警告ラベル

警告ラベル

このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

警告ラベルの位置 - Tiger 800 および Tiger 800XC

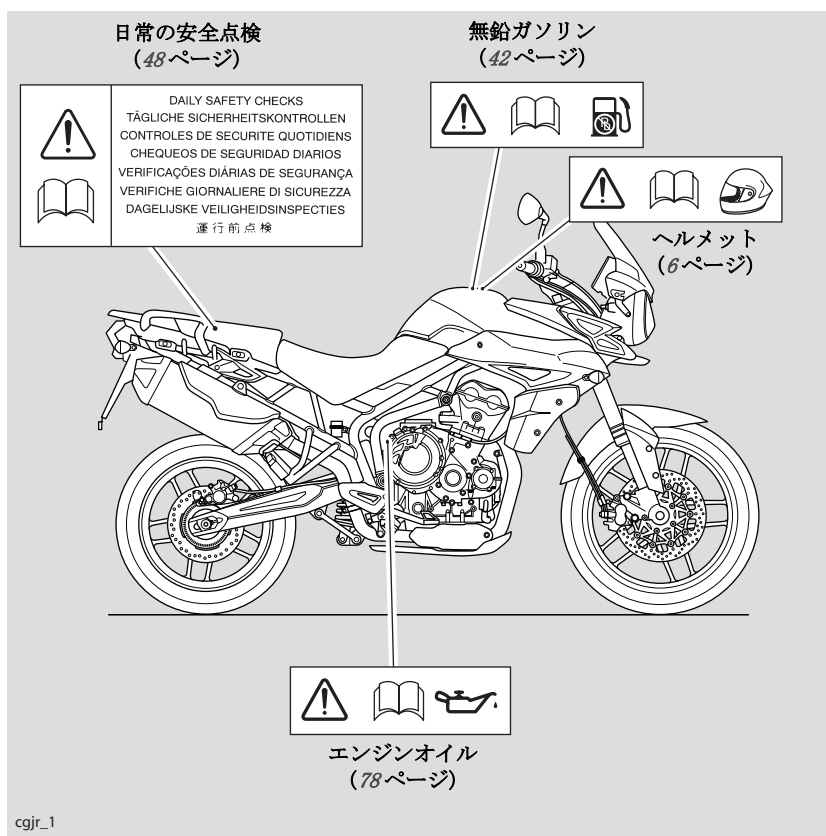


警告ラベル

警告ラベルの位置－ Tiger 800 および Tiger 800XC (続き)

⚠ 注意

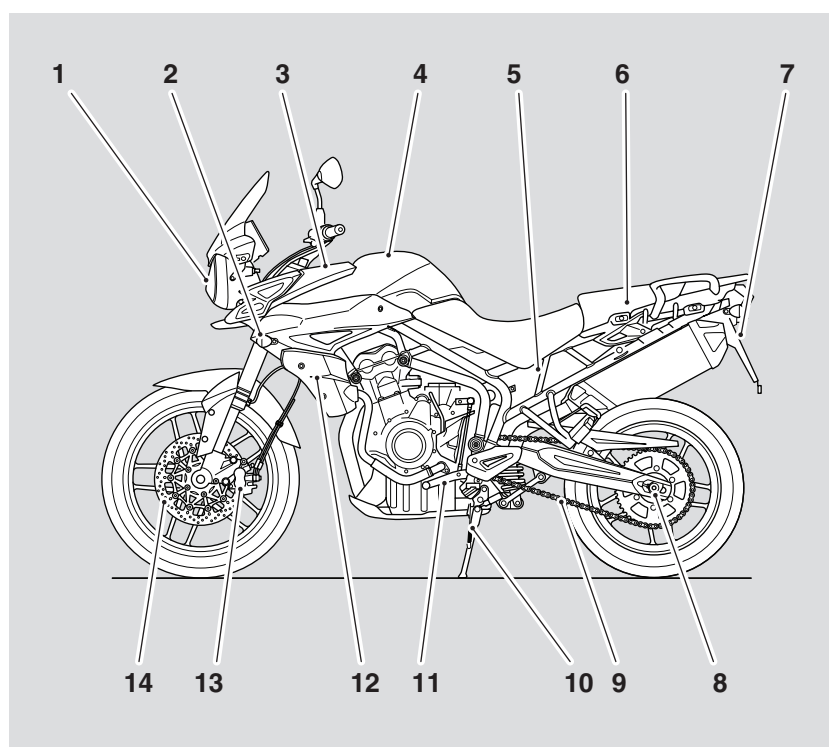
慣らし運転ラベルを除いた警告ラベルおよびシールは、強力な接着剤でモーターバイクに貼り付けてあります。場合によっては、ペイントラッカーを塗布する前にラベルを貼り付けている場合もあります。そのため、警告ラベルを剥がそうとすると、塗装面や車体を損傷する恐れがあります。



部品の名称

部品の名称

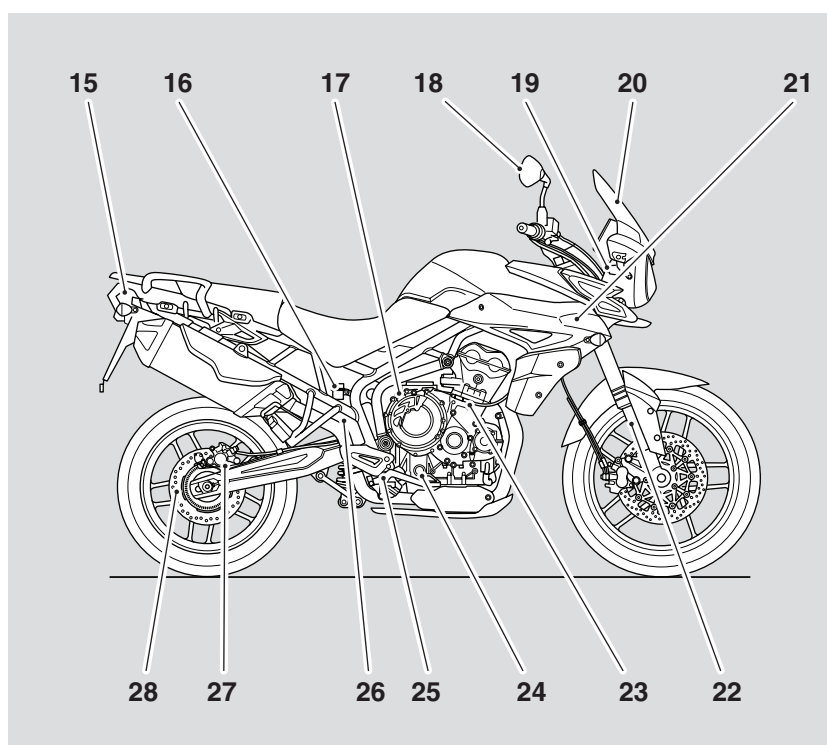
Tiger 800



- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. ヘッドライト | 8. リアホイールアジャスター |
| 2. フロントインジケーター | 9. ドライブチェーン |
| 3. 電動アクセサリ用ソケット | 10. サイドスタンド |
| 4. 燃料タンクおよび燃料フィラー
キャップ | 11. ギアチェンジペダル |
| 5. バッテリーおよびヒューズボックス | 12. ラジエーター / クーラントプレッ
シャーキャップ |
| 6. ツールキット / アクセサリ U ロック
保管場所 | 13. フロントブレーキキャリパー |
| 7. シートロック | 14. フロントブレーキディスク |

部品の名称

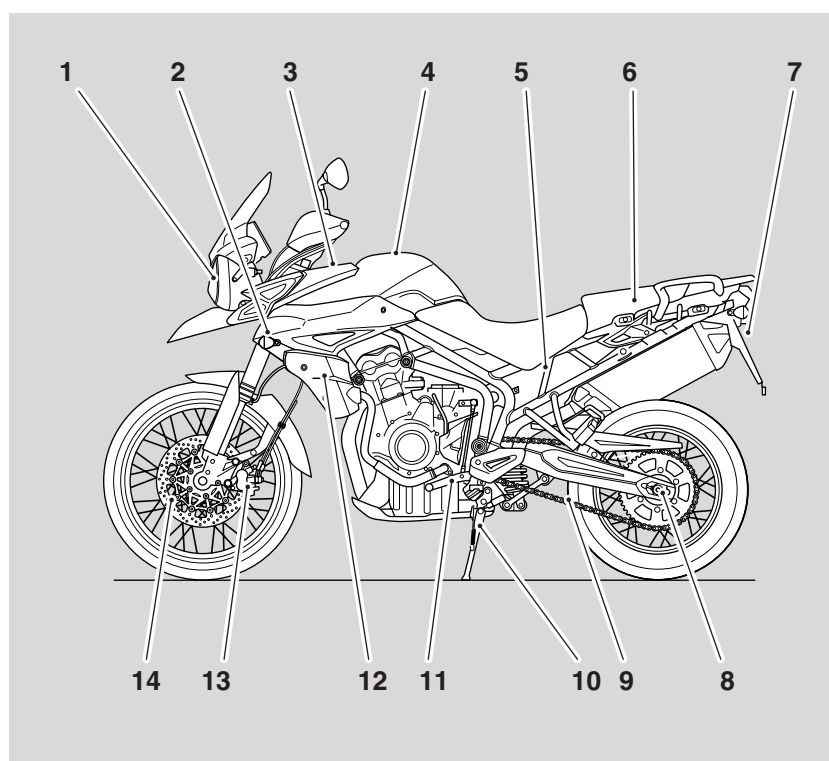
Tiger 800 続き



- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 15. リアライト | 23. クラッチケーブル |
| 16. リアブレーキフルードリザーバ | 24. エンジンオイルレベルサイトグラス |
| 17. オイルフィルターキャップ | 25. リアブレーキペダル |
| 18. ミラー | 26. リアサスペンションスプリングプリロードアジャスター |
| 19. ヘッドライトアジャスター | 27. リアブレーキキャリパー |
| 20. ウィンドスクリーン | 28. リアブレーキディスク |
| 21. クーラント膨張タンク | |
| 22. フロントフォーク | |

部品の名称

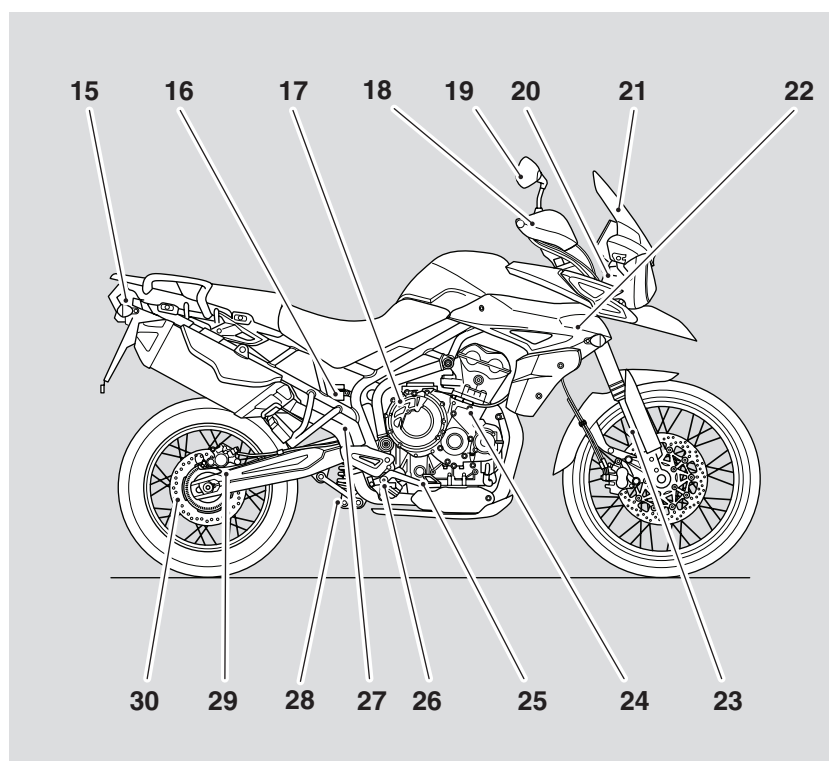
Tiger 800XC



- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. ヘッドライト | 8. リアホイールアジャスター |
| 2. フロントインジケーター | 9. ドライブチェーン |
| 3. 電動アクセサリ用ソケット | 10. サイドスタンド |
| 4. 燃料タンクおよび燃料フィラー
キャップ | 11. ギアチェンジペダル |
| 5. バッテリーおよびヒューズボックス | 12. ラジエーター/クーラントプレッ
シャーキャップ |
| 6. ツールキット/アクセサリ U ロック
保管場所 | 13. フロントブレーキキャリパー |
| 7. シートロック | 14. フロントブレーキディスク |

部品の名称

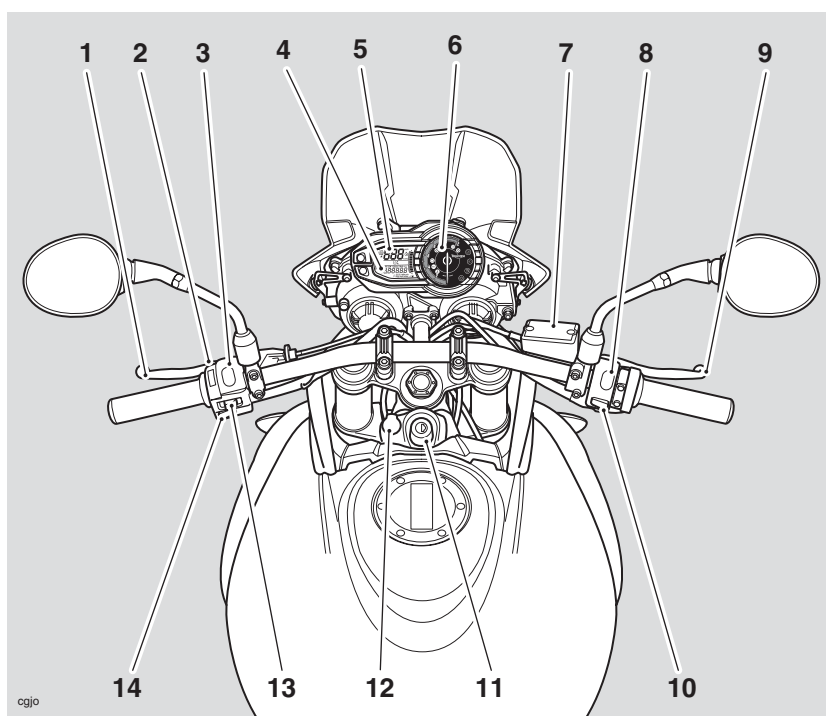
Tiger 800XC 続き



- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 15. リアライト | 24. クラッチケーブル |
| 16. リアブレーキフルードリザーバ | 25. エンジンオイルレベルサイトグラス |
| 17. オイルフィルターキャップ | 26. リアブレーキペダル |
| 18. ハンドガード | 27. リアサスペンションプリロードアジャスター |
| 19. ミラー | 28. リアサスペンション伸側減衰アジャスター |
| 20. ヘッドライトアジャスター | 29. リアブレーキキャリパー |
| 21. ウィンドスクリーン | 30. リアブレーキディスク |
| 22. クーラント膨張タンク | |
| 23. フロントフォーク | |

部品の名称

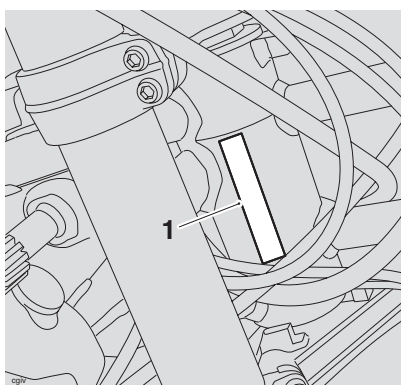
全モデル（図は Tiger 800）



- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. クラッチレバー | 8. エンジンストップスイッチ |
| 2. パッシングボタン | 9. フロントブレーキレバー |
| 3. ヘッドライトディップスイッチ | 10. スターターボタン |
| 4. トリップコンピューター表示部 | 11. イグニッションスイッチ |
| 5. スピードメーター | 12. 電動アクセサリ用ソケット |
| 6. タコメーター | 13. 方向指示器スイッチ |
| 7. フロントブレーキフルードリザーバ | 14. ホーンボタン |

シリアル番号

車体識別番号 (VIN)



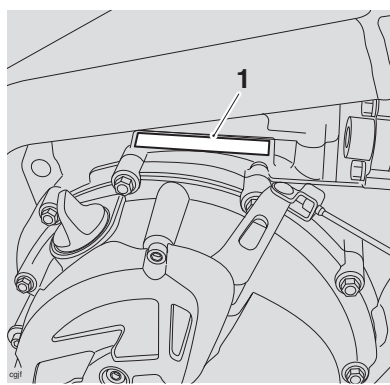
1. 車体識別番号 (図は Tiger 800)

車体識別番号 (VIN) は、フレームのステアリングヘッドエリアに刻印されています。また、ステアリングヘッドの左側にある、フレームにリベットで留められたプレートの上にも表示されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

--

エンジンシリアル番号



1. エンジンシリアル番号 (図は Tiger 800)

エンジンシリアルナンバーは、クラッチカバーのすぐ上の、エンジンクランクケースに刻印されています。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

--

シリアル番号

このページは意図的に空白にしています

一般情報

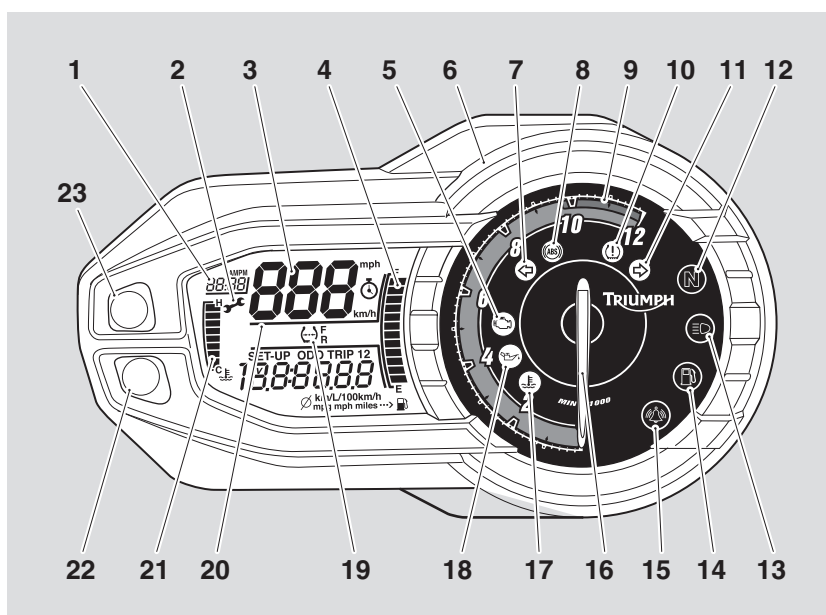
目次

計器盤のレイアウト	21
スピードメーターとオドメーター	22
タコメーター	22
トリップコンピューター	22
オドメーター / トリップメーター	23
トリップメーター	23
トリップメーターリセット	24
オドメーター	24
時計の調節	25
単位の変更（帝国、米国、メートル）	26
ABS 解除（ABS 付きモデルのみ）	27
点検間隔インジケーター	28
燃料計	28
タイヤ空気圧モニタリングシステム（TPMS）	29
機能	29
タイヤ空気圧センサーシリアル番号	29
システム表示部	30
センサーバッテリー	30
タイヤ空気圧	31
タイヤの交換	31
警告灯	32
方向指示器	32
ハイビーム	32
燃料低下	32
ニュートラル	32
油圧低下警告灯	32
クーラント過熱警告灯	32
エンジン管理誤作動インジケータランプ	33
アラーム / イモビライザーインジケータライト	33
タイヤ空気圧警告灯	34

一般情報

イグニッションキー	35
イグニッションスイッチ / ステアリングロック	36
イグニッションスイッチポジション	36
ブレーキレバーアジャスター	38
右ハンドルのスイッチ	39
エンジンストップスイッチ	39
スターターボタン	39
左ハンドルのスイッチ	40
ヘッドライトディップスイッチ	40
方向指示器スイッチ	40
ホーンボタン	40
パスボタン	40
ハンドル調整	41
燃料の条件 / 燃料補給	42
燃料の等級	42
フューエルタンクキャップ	43
燃料タンクへの給油	44
ツールキットと取扱説明書	44
スタンド	45
サイドスタンド	45
シート	46
シートケア	46
リアシート	46
ライダーシート	47
ライダーシート高調整	48
ヘルメットフック	49
Triumph アクセサリー D ロック保管場所	50
電動アクセサリー用ソケット	50
慣らし運転	51
安全運転	52
日常の安全点検	52

計器盤のレイアウト



- | | |
|---|---|
| 1. 時計 | 14. 燃料レベル低下表示灯 |
| 2. 点検間隔インジケーター | 15. アラーム / イモビライザー作動状態インジケータライト (アラームは取付アクセサリ) |
| 3. スピードメーター | 16. タコメーター |
| 4. 燃料計 | 17. クーラント過熱警告灯 |
| 5. エンジン管理不具合表示灯 | 18. 油圧低下警告灯 |
| 6. ギアチェンジライト | 19. タイヤ空気圧表示部 (タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) 装着の場合) (Tiger 800XC モデルでは TPMS を使用できません) |
| 7. 左側の方向指示灯 | 20. 表示スクリーン |
| 8. ABS 警告灯 (ABS モデルのみ) | 21. クーラント温度ディスプレイ |
| 9. タコメータ「レッドゾーン」 | 22. ボタン B |
| 10. タイヤ空気圧警告灯 (タイヤ空気圧監視システム (TPMS) 装着の場合) (Tiger 800XC モデルでは TPMS を使用できません) | 23. ボタン A |
| 11. 右側の方向指示灯 | |
| 12. ニュートラル表示灯 | |
| 13. ハイビーム表示灯 | |

一般情報

スピードメーターとオドメーター

デジタルスピードメーターは、モーターサイクルの走行速度を表示します。読み出し数字表示部は、モーターサイクルの走行速度を 1 km 単位の時速で表示します。

電子オドメーターと2個のトリップメーターがスクリーンに表示されます。オドメーターとトリップメーターの使い方に関しては、以下のページを参照してください。

タコメーター

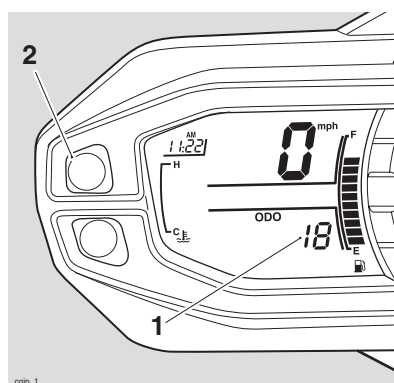
タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm (r/min) で表示します。タコメーターの片側はレッドゾーンです。毎分エンジン回転速度 (r/min) がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。



注意

エンジンの rpm (毎分回転速度) がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

トリップコンピューター



1. 表示スクリーン

2. ボタン A

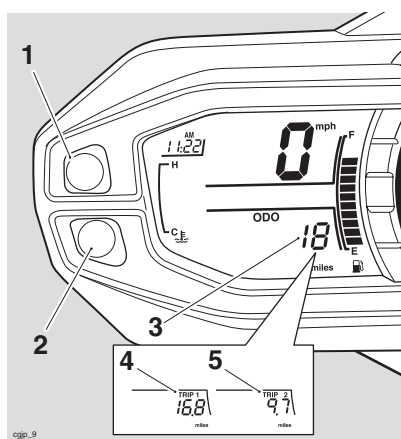
トリップコンピューター情報を得るには、その画面が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。この画面は順番にスクロールします。

- ・ トリップメーター 1
- ・ トリップメーター 2
- ・ タイヤ空気圧モニタリングシステム - 装着されている場合 (アクセサリとして Tiger 800 モデルにのみ装着可能)
- ・ セットアップ

注記：

- ・ アクセサリーであるタイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) の取り付けは、正規 Triumph ディーラーで実施してください。正規 Triumph ディーラーが TPMS 表示部を起動させます (TPMS は Tiger 800XC モデルには装着できません)。

オドメーター / トリップメーター



1. ボタン A
2. ボタン B
3. オドメーター / トリップメーターディスプレイ
4. トリップメーター 1 ディスプレイ
5. トリップメーター 2 ディスプレイ

トリップメーター

ディスプレイ上のトリップメーターをリセットすると、そのトリップメーターにモーターバイクの走行距離、走行時間、平均燃料消費量、瞬間燃料消費量、平均速度が表示されます。

トリップメーター情報を入手するには、イグニッションをONにします。所期のトリップメーターが画面に表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。

所期の画面が表示されるまで、ボタン B を繰り返し押してください。この画面は順番にスクロールします。

- ・ 走行距離
- ・ 残燃料ゼロまでの可航距離
- ・ 走行時間
- ・ 平均燃料消費量
- ・ 瞬間燃料消費量
- ・ 平均速度

トリップメーターを前回リセットしているので、以下のように測定した情報が画面に表示されます：

走行距離

総走行距離。

残燃料ゼロまでの可航距離

これは、タンクに残っている燃料で走行可能な距離を表しています。

走行時間

経過時間。

平均燃料消費量

平均燃料消費量の表示リセット後、0.1 km に達するまではダッシュ記号が表示されます。

瞬間燃料消費量

瞬間の燃料消費量の表示。

平均速度

平均速度は、トリップコンピューターを最後にリセットした時から計算されます。リセット後、1 km に達するまではダッシュ記号が表示されます。

一般情報

警告

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

トリップメーターリセット

一方のトリップメーターをリセットするには、リセットするトリップメーターを選択して画面に表示し、ボタンBを2秒間押してください。2秒経過すると、表示部上のトリップメーターはゼロにリセットされます。

注記：

- ・ トリップメーターをゼロにリセットすると、同時に走行時間、平均燃料消費量、平均速度もゼロにリセットされます。

トリップメーターを終了するには、次の所期画面が表示されるまで、ボタンAを繰り返し押してください。

オドメーター

イグニッションをオンにすると、オドメーターが3秒間表示され、前回選択したトリップメーターが表示されます。

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

オドメーター画面にするには、モーターサイクルが静止状態かつニュートラルの状態、set up が表示スクリーンに表示されるまでボタンAを繰り返し押し、次にボタンBを押します。オドメーターが表示されるまで、ボタンAを繰り返し押します。

オドメーターを終了するには、rEturnが表示されるまでボタンAを繰り返し押し、次にボタンBを押してください。Trip 1が画面に表示されます。

時計の調節



警告

モーターバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

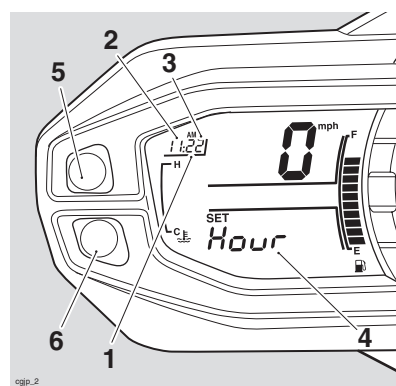
時計をリセットするには、モーターサイクルが静止状態かつニュートラルの状態、イグニッションをオンポジションにします。set up が表示スクリーンに表示されるまで、ボタン A を繰り返し押します。ボタン B を押すと、t-SEt が表示されます。

再びボタン B を押すと、24 Hr または 12 Hr 時間が表示されます。ボタン A を押して所期の時計ディスプレイを選択し、ボタン B を押します。時間表示が点滅し、Hour が画面に表示されます。

時刻表示をリセットする際、時間表示が点滅し、Hour が表示されていることを確認してください。ボタン A を押して設定を変更します。ボタンを 1 回押すごとに、設定がひとつたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

適切な時間が表示されたら、ボタン B を押します。分表示が点滅し、Min が画面に表示されます。分は、時と同じやり方で合わせます。

時と分を設定したら、ボタン B を押して t-SEt が表示されるのを確認します。rEtun が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。Trip 1 が画面に表示されます。



1. 時計ディスプレイ
2. 時
3. 分
4. 表示スクリーン
(調整のため選択した Hour)
5. ボタン A
6. ボタン B

一般情報

単位の変更（帝国、米国、メートル）

以下のように単位は 4 モードで表示されます。

- ・ mpg - 英ガロン
- ・ mpg US - 米ガロン
- ・ L/100 km - メートル法
- ・ km/L - メートル法

各ディスプレイに以下のデータが表示されます：

mpg（英ガロン）

スピードメーターとオードメーターはマイル表示です。燃料消費量は英ガロンで測ります。

mpg US（米ガロン）

スピードメーターとオードメーターはマイル表示です。燃料消費量は米ガロンで測ります。

L/100 km（メートル法）

スピードメーターとオードメーターはキロメートル表示です。燃料消費量は 100 km ごとの燃料量（リッター）で測ります。

km/L（メートル法）

スピードメーターとオードメーターはキロメートル表示です。燃料消費量は燃料量（リッター）ごとのキロメートルで測ります。



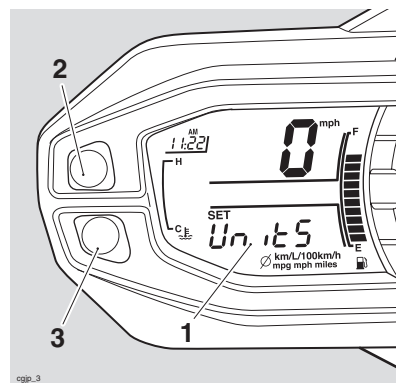
警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こしかねないので、走行中に単位表示を変更しないでください。

単位表示画面にするには、モーターサイクルが静止状態かつニュートラルの状態、イグニッションをオンポジションにします。

set up が画面に表示されるまで、ボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。

UnitS が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押してください。



1. 表示スクリーン
2. ボタン A
3. ボタン B

所期の画面が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押してください。この画面は順番にスクロールします。

- ・ mpg - 英ガロン
- ・ mpg US - 米ガロン
- ・ L/100 km - メートル法
- ・ km/L - メートル法

TPMS なしのモデル: ボタン B を押し、UnitS が表示スクリーンに表示されるまではボタン A や B に再び触らないようにします。UnitS が表示スクリーンに表示されたら、rEturn が表示されるまでボタン A を繰り返し押し、次にボタン B を押します。Trip 1 が表示スクリーンに表示されます。

TPMS 付きのモデル: ボタン B を押し、PSI または bAr が表示されるまではボタン A や B に再び触らないようにします。希望するタイヤ空気圧単位が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押しします。ボタン B を押し、UnitS が表示されるまで待ち、次にボタン A を押し、rEturn が表示されたらボタン B を押します。Trip 1 が表示スクリーンに表示されます。

ABS 解除 (ABS 付きモデルのみ)

ABS システムを一時的に無効化することができます。ABS システムを永久に無効化することはできません。イグニッションをオフした後、再度オンすると、ABS システムは有効な状態になります。

警告

ABS が解除されていると、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動します。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックされ、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABS 解除方法

ABS 解除機能を表示するには、イグニッションをオンポジションにします。

set up が表示スクリーンに表示されるまで、ボタン A を繰り返し押しして、次にボタン B を押します。

ABS が表示されるまで、ボタン A を繰り返し押しします。

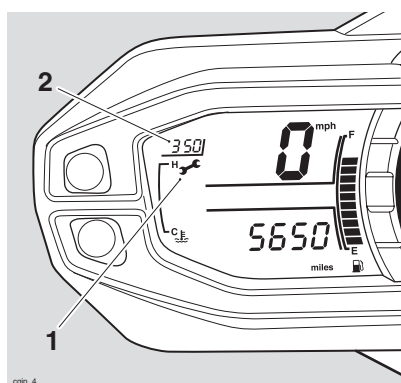
ボタン B を押すと ABS システムが解除されます。ABS OFF のメッセージが 2 秒間表示され、ABS 警告灯が点灯します。

ABS 復帰方法

ABS システムを復帰させるには、イグニッションスイッチをオフにしてから再びオンにしてください。

一般情報

点検間隔インジケーター

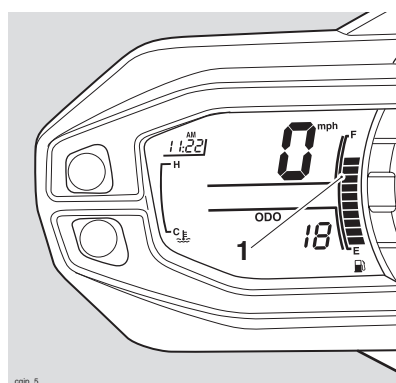


1. 点検インジケーター
2. 残り距離

イグニッションのスイッチを入れた時に、次回点検までの距離が 800 km を切った場合、点検マークが 3 秒間表示され、次回点検までの残り距離が時計表示部に表示されます。

残り距離が 0 km の場合は、正規 Triumph デイラーが点検を実施してシステムをリセットするまで、点検マークが表示されたままになります。点検が遅れている場合、距離はマイナスの数字で表示されます。

燃料計



1. 燃料計

燃料計はタンクに入っている燃料の量を表示します。

イグニッションのスイッチを入れたら、表示部にバーが表示され、バーの数は燃料レベルを示します。

燃料タンクが満タンの場合、12 本のバーが表示され、空の場合は全く表示されません。それ以外の場合、燃料レベルが満タンと空の間にあることを示しています。

2 本のバーが表示されると、燃料レベル低下警告灯が点灯し、5 秒後に表示スクリーンが可航距離表示に切り替わります (23 ページを参照)。これは、タンクに約 4.5 リッターの燃料しか残っていないことを示し、速やかに給油するように促すものです。

給油後、モータサイクルが走行している間に限り、燃料計と燃料が空になるまでの可航距離の情報が更新されます。走行方法により、更新されるまで最大 5 分かかります。

一般情報

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS)

注記：

- TPMSはTiger 800モデル専用のアクセサリオプションです。Tiger 800XCモデルには装着できません。



機能

フロントホイールとリアホイールに、タイヤ空気圧センサーを取り付けています。センサーでタイヤ内部の空気圧を測定し、圧力データを計器に送信します。モーターサイクルの走行速度が 20 km を超えるまで、センサーはデータを送信しません。タイヤ空気圧信号を受信するまで、表示部には2本のダッシュ記号が表示されます。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) は、アクセサリとして装着するものであり、取り付けは正規 Triumph デイラーが行わなければなりません。TPMS システムを取り付けなければ、計器上のTPMS表示部には何も表示されません。粘着ラベルをホイールリムに貼り付けることによって、バルブ近くにあるタイヤ空気圧センサーの位置が分かります。

タイヤ空気圧センサーシリアル番号

タイヤ空気圧センサーのシリアル番号は、センサーに貼りつけられているラベルに印字されています。正規販売店での点検時および診断時にこのシリアル番号が必要になることがあります。

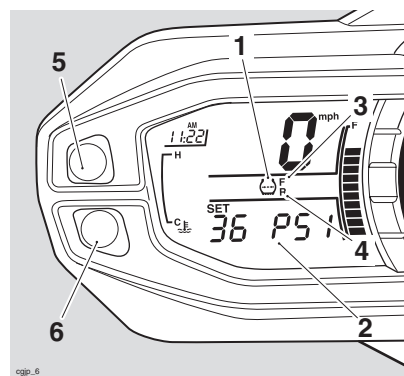
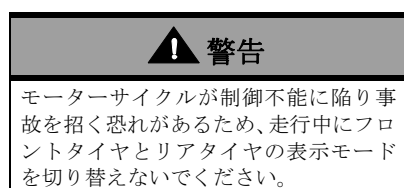
タイヤ空気圧モニタリングシステムをモーターサイクルに取り付けたら、正規販売店で以下の空欄にフロントとリアのタイヤ空気圧センサーのシリアル番号を記録してもらってください。

フロントタイヤ空気圧センサー

リアタイヤ空気圧センサー

一般情報

システム表示部



1. TPMS マーク
2. タイヤ空気圧表示部
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. ボタン A
6. ボタン B

タイヤ空気圧を表示するには、イグニッションをオンポジションにします。

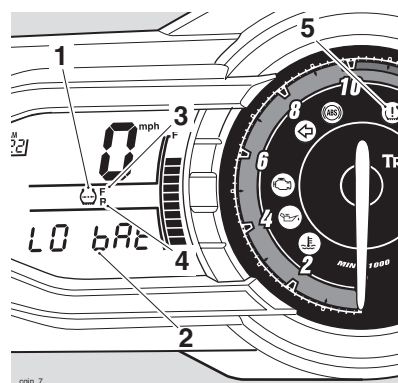
psi または bAr が表示スクリーンに表示されるまで、ボタン A を繰り返し押します。ボタン B を繰り返し押して、フロントタイヤまたはリアタイヤの空気圧を選択します。

タイヤ空気圧モニタリングシステムを選択すると、モーターサイクルの走行速度が 20 km を超えてタイヤ空気圧信号が受信されるまでは、psi または bAr が表示スクリーンに表示されます。

タイヤ空気圧表示を終了するには、表示したい画面になるまでボタン A を繰り返し押します。

センサーバッテリー

圧力センサーのバッテリー電圧が低いと、LO bAt が表示され、どのホイールセンサーが低バッテリー電圧なのか TPMS マークによって表示されます。バッテリーが完全に上がっている場合、表示スクリーンにはダッシュ記号のみが表示され、赤色の TPMS 警告灯が点灯し、TPMS マークが継続して点滅します。正規 Triumph デイラーに連絡してセンサーを交換してもらい、新しいシリアル番号を 29 ページの空欄に記入してもらってください。



1. TPMS マーク
2. 表示スクリーン
3. フロントタイヤ
4. リアタイヤ
5. TPMS 警告灯

イグニッションスイッチがオンポジションの状態、TPMS マークが 10 秒間点滅し、その後点灯したままとなる場合は、TPMS システムの故障です。正規 Triumph デイラーに連絡して、故障を修理してもらってください。

タイヤ空気圧

計器盤に表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時のタイヤ空気圧です。タイヤが運転中に温められるとタイヤ内の空気が膨張し、空気圧が高まるため、タイヤが冷えている時に設定した空気圧とは異なる場合があります。Triumph が規定した冷間タイヤ空気圧は、これを考慮に入れています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧計を使用してタイヤが冷えているときに行ってください (103 ページを参照)。計器に表示されたタイヤ空気圧を見て調整しないでください。

タイヤの交換

タイヤを交換する際は、必ず正規 Triumph デイラーにタイヤを取り付けてもらい、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることを伝えてください (105 ページを参照)。



警告

タイヤ空気圧を調整する際、タイヤ空気圧モニタリングシステムを、タイヤ空気圧力計として使用してはなりません。タイヤ空気圧を正しく設定するためには、必ずタイヤが冷えている時に正確なタイヤ空気圧計を使用して、タイヤ空気圧を確認してください (103 ページを参照)。

タイヤ空気圧の設定に TPMS システムを使用すると、タイヤ空気圧が正しく設定できず、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

一般情報

警告灯

方向指示器



インジケータースイッチを左右いずれかに回すと、ターンインジケータランプがターンインジケータと同じテンポで点滅します。

ハイビーム



ハイビーム警告ランプは、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディップスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

燃料低下



タンク内の残存燃料が約4.5リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

ニュートラル



ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチがONの状態ではギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

油圧低下警告灯



エンジンがかかっている状態で、エンジン油圧が危険レベルに低下した場合、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。



注意

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターの油圧低下警告灯が点灯します。

クーラント過熱警告灯



エンジンがかかっている状態でエンジンクーラントの温度が危険レベルになった場合、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。



注意

クーラント過熱警告灯が点灯したら、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

クーラント過熱警告灯が点灯している状態でエンジンが回転していると、エンジンに多大な損傷をもたらします。

イグニッションスイッチを入れてエンジンをかけないでいると、タコメーターのクーラント過熱警告灯が点灯します。

エンジン管理誤作動インジケータランプ



エンジン管理システムの不全表示灯は、イグニッションスイッチを入れた（不全表示灯が作動していることを示すために）短時間点灯しますが、エンジンが回転している時に点灯してはなりません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。



警告

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けしないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅（点いたり、消えたりをくり返す）する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。

アラーム / イモビライザーインジケータライト



この Triumph モデルには、イグニッションスイッチをオフポジションにすると作動する、エンジンイモビライザーが装着されています。モーターサイクルに Triumph 純正アクセサリアラームが装着されている場合は、イモビライザーは正常に作動しますが、アラーム / イモビライザーライトは以下のように作動します。

アラーム付きの場合

アラーム / イモビライザーライトは、Triumph 純正アクセサリアラームの説明書に記載されている条件に合致した場合のみ点灯します。

アラームなしの場合

イグニッションスイッチをオフポジションに回すと、アラーム / イモビライザーライトが 24 時間点滅を繰り返し、エンジンイモビライザーがオンであることを示します。イグニッションスイッチをオンポジションに回すと、イモビライザーが解除されインジケータライトが消灯します。

インジケータライトが点灯したままの場合は、イモビライザーの誤作動であり、検査が必要です。できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。

一般情報

ABS (アンチ-ロックブレーキシステム) インジケーターライト (ABS が装着されているモデルのみ)



イグニッションスイッチをオンポジションに回した時に、ABS 警告灯が点滅して消灯するのは正常な状態です。エンジンをスタートした後もライトは点滅したままで、モーターサイクルが時速10 km/hを最初に超えたときに消灯します。

ABS システムを解除しない限り (27ページを参照)、または故障がない限り、エンジンを再始動させるまで再度点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケーターライトが点灯した場合は、ABS に誤動作が生じており、点検が必要です。

警告

ABS が機能しないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動し続けます。インジケーターライトが点灯したままの状態、必要以上に長く走行を続けしないでください。できるだけ早く正規 Triumph デイラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

59 ページのブレーキ操作についても参照してください。

タイヤ空気圧警告灯

注記：

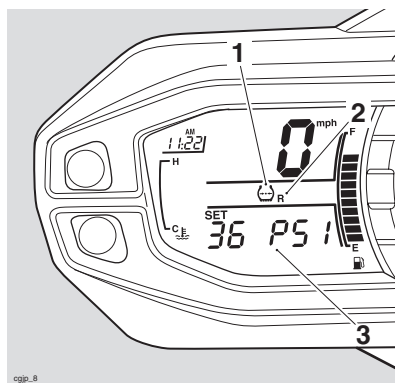
- TPMS は Tiger 800 モデル専用のアクセサリオプションです。Tiger 800XC モデルには装着できません。



タイヤ空気圧警告灯は、タイヤ空気圧モニタリングシステムと連動して作動します (29ページを参照)。

フロントタイヤまたはリアタイヤの空気圧が、推奨空気圧より低い場合のみ警告灯が点灯します。タイヤ空気圧が過剰な場合は点灯しません。

警告灯が点灯すると、どちらのタイヤの空気圧が抜けているかを示す TPMS マークとそのタイヤの空気圧が自動的に表示部に表示されます。



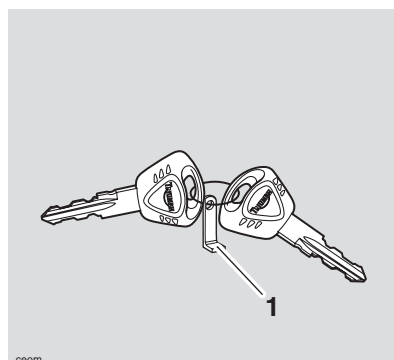
1. TPMS マーク
2. リアタイヤ
3. タイヤ空気圧

警告灯が点灯する時のタイヤ空気圧は、20℃に温度補償されていますが、表示される空気圧の数値は補償されていません(103ページ参照)。警告灯が点灯したとき、数値表示が標準タイヤ空気圧か、それに近い数値であったとしても、タイヤ空気圧が低いことは間違いなく、その原因として最も可能性があるのがパンクです。

警告

タイヤ空気圧警告灯が点灯したら、モーターサイクルを止めてください。タイヤを点検し、タイヤが冷えた状態でのタイヤ空気圧が推奨値であることを確認するまでは、モーターサイクルを運転しないでください。

イグニッションキー



1. キーナンバータグ

イグニッションキーは、ステアリングロック/イグニッションスイッチを作動させるだけでなく、シートロックとフューエルタンクキャップを操作する際にも必要です。本モーターサイクルが工場出荷される際には、キーが2個とキーナンバーを記した小さなタグが支給されます。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターサイクルから離れた安全な場所に保管してください。

エンジンイモバイザーをオフにする、トランスポンダーがキーに内蔵されています。イモバイザーを正常に機能させるため、イグニッションスイッチの近くでは常にイグニッションキーを一つだけ持つようにしてください。イグニッションスイッチ近くでイグニッションキーを2個持つと、トランスポンダーとエンジンイモバイザー間の信号を妨害する場合があります。その場合、イグニッションキーを1個にするまでは、エンジンイモバイザーが作動したままとなります。

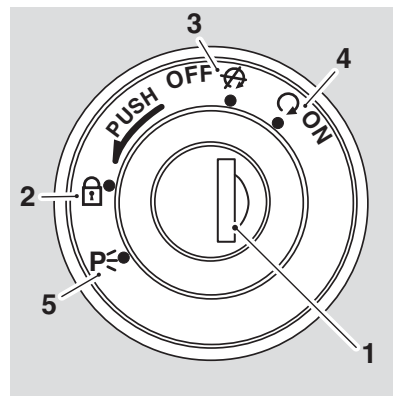
一般情報

キーを交換する場合は、必ず正規 Triumph デイラーから入手してください。正規 Triumph デイラーに、モーターサイクルのイモビライザーと交換したキーを連動させてもらわなければなりません。

⚠ 注意

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

イグニションスイッチ / ステアリングロック

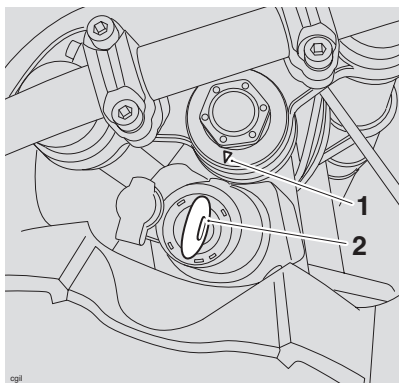


1. イグニションスイッチ / ステアリングロック
2. LOCK ポジション
3. OFF ポジション
4. ON ポジション
5. PARK ポジション

イグニションスイッチポジション

これはポジションが4つある、キー作動型スイッチです。キーはOFF、LOCK、またはP (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

ロックするには:アッパーヨークの矢印とイグニッションキーが一直線上に並ぶまでハンドルを左に回します。



1. アッパーヨークの矢印
2. イグニッションキー

キーをオフポジションまで回し、押してからキーを完全に放します。それからロックポジションまで回します。

駐車: ロックポジションから「P」ポジションにキーを回してください。ステアリングはロックされたままで、ポジションライトが点灯します。

注記:

- ステアリングロックを長い間Pポジションにセットしたままにしないでください。バッテリーが上がる原因となります。

⚠ 警告

モーターバイクから離れる場合、万一のために必ずイグニッションスイッチをOFFポジションにしてキーを抜き取ってください。

モーターバイクを無免許で乗り回した場合、ライダー自身や他の道路使用者、歩行者の負傷の原因となり、バイクの損傷にもつながりかねません。

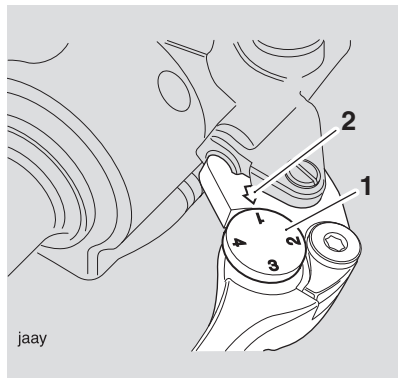
⚠ 警告

キーが LOCK や P ポジションにあると、ステアリングがロックされます。

バイクが走行中は、絶対に、キーを回して LOCK または P ポジションに入れたりしないでください。ステアリングがロックされるからです。ステアリングがロックされると、バイクは制御不能に陥って事故を招くことがあります。

一般情報

ブレーキレバーアジャスター



1. アジャスターホイール
2. 三角マーク

アジャスターがフロントブレーキレバーに付いています。このアジャスターを使って、ハンドルからレバーまでの間隔を、運転者の手の大きさに合わせて4段階に変えることができます。

レバーを調整するには、レバーを前の方に押してアジャスターホイールを回し、任意の番号のポジションをレバーホルダーの三角マークに合わせます。

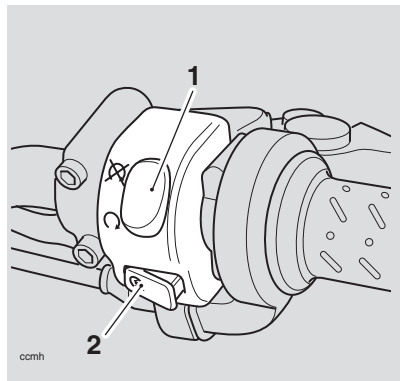
ハンドルグリップと握られていないレバーの間隔は、4番にセットした時に最も短くなり、1番にセットした時に最も長くなります。

警告

モーターバイクのバランスを崩して事故を引き起こしかねないので、走行中にレバーを調整しないでください。

レバーを調整したら、車が通らない場所でモーターバイクを操縦し、新しいレバーの設定に馴染んでください。お持ちのバイクを他人に貸さないでください。借り手が、あなたの手になじんだレバー設定を変える可能性があり、バイクが制御不能になって事故を引き起こしかねません。

右ハンドルスイッチ



1. エンジnstopスイッチ
2. スターターボタン

エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニッションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチを RUN ポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- ・ エンジンストップスイッチはエンジンを停止させますが、電装回路をすべてオフにするわけではないので、バッテリーが上がってエンジンの再始動を困難にする恐れがあります。通常は、エンジンを止めるのに、イグニッションスイッチだけを使うべきです。

⚠ 注意

電装コンポーネントを損ない、バッテリーが放電する恐れがあるので、エンジンが回転していない時は、イグニッションスイッチを ON ポジションのままにしないでください。

スターターボタン

スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

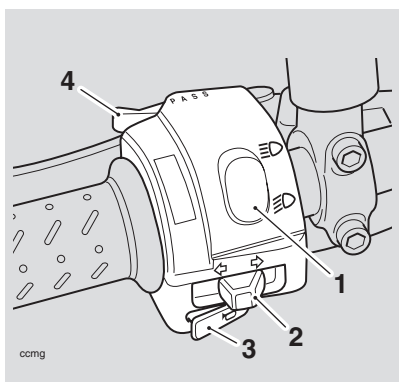
注記：

- ・ クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。

エンジンがかかっていると、スターターボタンがラップタイマー「トリガー」ボタンとして機能します。スターターボタンを瞬間的に押すと、ラップタイマーが次のラップを記録し始めます。

一般情報

左ハンドルスイッチ



1. ヘッドライトディップスイッチ
2. 方向指示器スイッチ
3. ホーンボタン
4. パスボタン

ヘッドライトディップスイッチ

ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームに入れると、ハイビーム表示灯が点きます。

注記：

- ・ このモデルには、ライト用のオン / オフスイッチは付いていません。ヘッドライト、テールライト、ライセンスプレートライトはすべて、イグニッションを ON ポジションにすると自動的に作動します。

方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを左または右に押してから放すと、対応している方向指示器が点滅します。指示器の作動を停止させるには、スイッチを押してから放します。

ホーンボタン

イグニッションスイッチが ON になっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

パスボタン

パスボタンを押すと、ヘッドライトメインビームのスイッチが入ります。パスボタンを押している間は、ヘッドライトのスイッチは入ったままで、ボタンを放すと途端に消えます。

ハンドル調整

ハンドルの間隔は約20 mmごとに調整可能です。

！ 警告

ハンドルの調整は、正規 Triumph ディーラーの熟練技術者に依頼されることを推奨します。正規 Triumph ディーラーと関係のない技術者によってハンドルの調整が行われた場合、操縦性、安定性、その他に影響を及ぼし、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

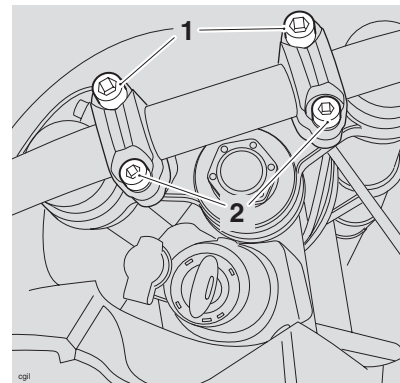
！ 警告

作業を開始する前に、モーターサイクルが安定しており、適切に支えられていることを確かめてください。これは技師の負傷やモーターサイクルの損傷を防ぐのに役立ちます。

注記：

- この手順では、ハンドルが工場出荷時の標準位置にあることを前提としています。ハンドルが以下の要領ですでに調整済みである場合は、ボルト位置が逆になります。

ハンドルを調整するために、ハンドルのリア（8 mm ネジ）クランプボルトを緩めて外し、次にフロント（10 mm ネジ）クランプボルトとライザーボルトを緩めて外します。



1. 10 mm 固定具
2. 8 mm 固定具

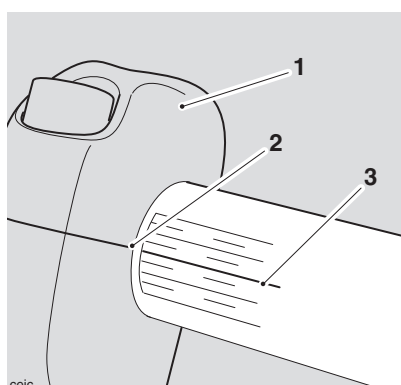
アシスタントに手伝ってもらい、ハンドルライザーからハンドルを持ち上げて支えます。

両方のライザーを180°回転させてボルト穴と合わせます。

ハンドルをライザーにセットし直します。アップークランプを再び取り付け、リアのボルト位置の10 mmネジのボルト2個で固定します。この段階ではボルトを本締めしないでください。

一般情報

ハンドル中央の刻印マーク（長い方）がアップークランプ/ライザーのスプリットラインと合うようにハンドルを回転させます。



1. アップークランプ
2. クランプスプリットライン
3. 中央マーク

10 mm ボルトを **35 Nm** まで締め付けます。
8 mm ボルトをフロント位置に再度取り付け、**26 Nm** まで締め付けます。

燃料の条件 / 燃料補給

燃料の等級



お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。Tiger 800 および Tiger 800XC モデルでは、オクタン価が 91 RON 以上の無鉛燃料を使用できます。

⚠ 注意

排気装置には、排ガスレベルを低減するのに役立つ触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

⚠ 注意

たいていの国、州、地域などで、有鉛ガソリンの使用が法的に禁止されています。有鉛ガソリンを使うと、触媒作用コンバーターに損傷を与えることがあります。

警告

燃料補給関連の危険を減らすため、以下の安全確保のための指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチを OFF にしてください。

禁煙厳守。

携帯電話は使用しないでください。

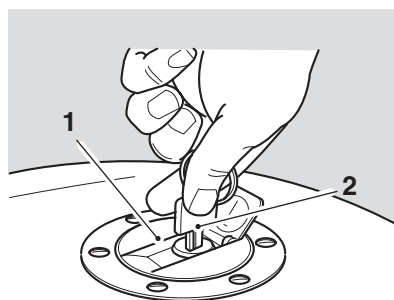
給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

燃料がフィルターネックに来るほどの満タンに、決してしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィルターキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

フューエルタンクキャップ



cbmm1

1. フューエルタンクキャップ

2. キー

フューエルタンクキャップを開けるには、ロック自体を覆っているフラップを持ち上げます。キーをロックに差し込んで時計回りに回します。

キャップを閉じてロックするには、キーを差し込んだまま、ロックがカチッと音をたてて所定の場所におさまるまでキャップを押し下げます。キーを引き抜いてキーカバーを閉じます。

注意

キーを差し込まずにキャップを閉じると、キャップ、タンク、ロック装置に損傷を与えることがあります。

一般情報

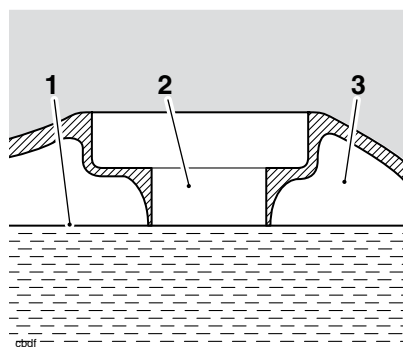
燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

⚠ 注意

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィルターネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。



1. 燃料レベルの上限
2. フューエルフィルターネック
3. 空隙

⚠ 警告

タンクをいっぱいになると、燃料の流出を招く恐れがあります。

燃料をこぼした場合は、きれいに拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他のモーターバイクの部分に燃料をこぼさないよう注意してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤ付近あるいはタイヤ上に燃料をこぼすと、タイヤの路面グリップ能力が落ちます。その結果、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を生じさせることがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィルターキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

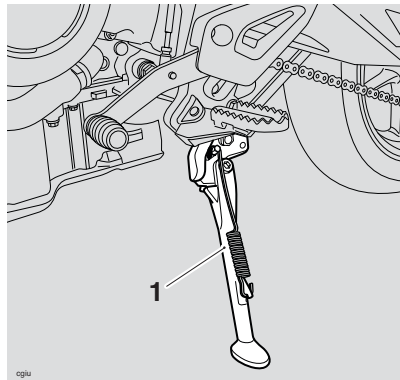
ツールキットと取扱説明書

ツールキットはリアシートの下に保管されています。

取扱説明書はリアシートの下に保管されています。

スタンド

サイドスタンド



1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。



警告

本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

注記：

- ・ サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。

サイドスタンドを使用した場合、モーターバイクにまたがってスタートする前に、必ずサイドスタンドが格納されていることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

一般情報

シート

シートケア

シートやシートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面に立てかけたりしないでください。

シートのクリーニングに関しては、117ページを参照してください。

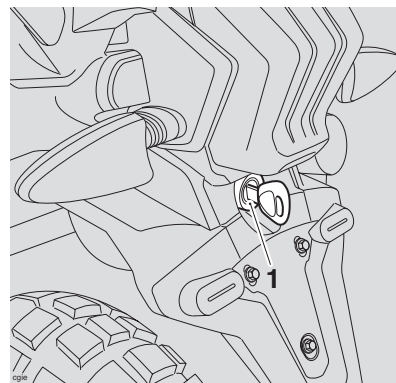


注意

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

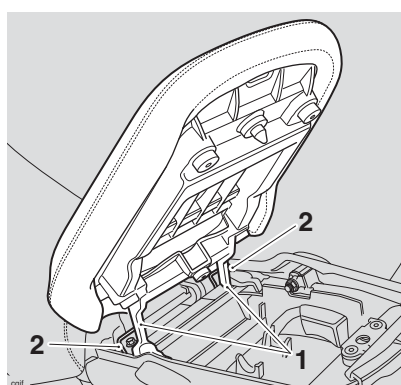
リアシート



1. シートロック

シートロックはリアマッドガード上、リアライトユニットの下にあります。シートを取り外すには、イグニッションキーをシートロックに差し込み、シートの後部を押し下げながらキーを反時計回りに回します。これでシートはロックから外れますので、後方にずらしてモーターサイクルから完全に取り去ることができます。

シートを再び取り付けるには、サブフレームのループ下にあるシートの 2 個のブラケットをかみ合わせ、後部を押し下げてシートロックにはめ込みます。



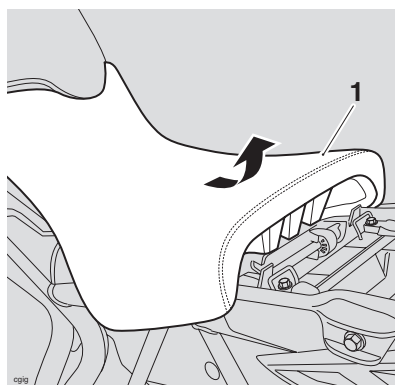
1. リアシートブラケット
2. サブフレームループ



警告

走行中にシートが外れるのを防ぐために、取り付け後必ずシートをつかんでぐっと引っ張り上げてみてください。シートが適切に固定されていないと、ロックから外れることがあります。シートがゆるんでいたたり外れていると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ライダーシート



1. ライダーシート

ライダーシートを取り外すには、リアシートを取り外します（46 ページを参照）。

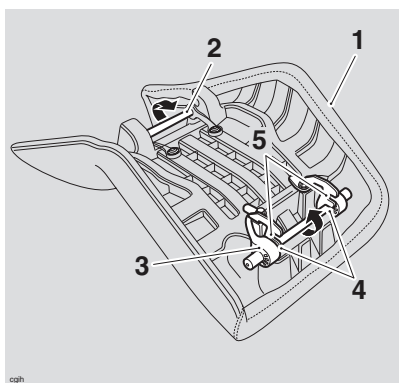
ライダーシートの両側をつかみ、後方にずらしてから上方に持ち上げて、モーターサイクルから完全に取り去ります。

シートを再び取り付けるには、燃料タンク後部にあるブラケットにシートのフロントレールをかみ合わせ、リアレールを下げてリアブラケットにはめ込みます。シートの後部をしっかりと押し下げます。

リアシートを再度取り付けます（46 ページを参照）。

一般情報

ライダーシート高調整



1. ライダーシート
2. フロントシート高アジャスター
3. リアシート高アジャスター
4. シート高ポジションを低くする場合
(図はリア)
5. シート高ポジションを高くする場合
(図はリア)

ライダーシートは約25 mmごとに高さ調整が可能です。

ライダーシートの調整

ライダーシートを取り外します (47 ページを参照)。

必要に応じて、シート高アジャスターの位置を高くしたり低くしたりしてセットし直します。アジャスターレールが両方ともシートのブラケットにそれぞれしっかりとかみ合っていることを確認します。

ライダーシートを再び取り付けます (47 ページを参照)。

⚠ 警告

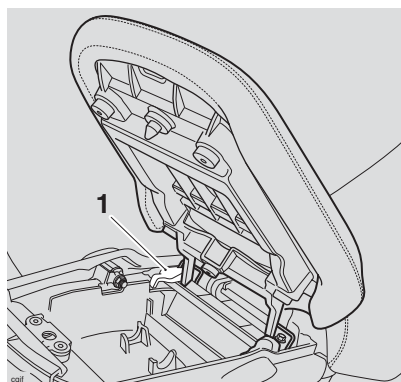
シート高アジャスターは常に両方とも調整してください。一方のシート高アジャスターだけを調整すると、シートを正しく取り付けることができません。シートが正しく取り付けられていないモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

シートを調整した後は、交通のない場所でモーターサイクルを運転し、新しいシート位置に慣れてください。不慣れたシート位置でモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

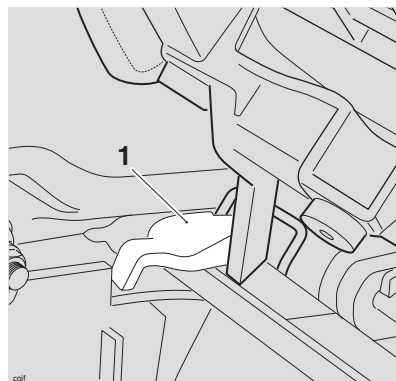
ヘルメットフック

ヘルメットは、シート下、モーターサイクルの左側にあるヘルメットフックを使ってモーターサイクルに固定することができます。



1. ヘルメットフック

モーターサイクルにヘルメットを取り付けるには、シートを取り外してヘルメットのあごひもをフックに掛けます。フックの上の平らな部分にヘルメットのストラップがかかっていないことを確認します。かかっているとリアシートを正しくはめ込みできません。



1. ヘルメットフックの平らな部分

ヘルメットを固定するには、シートを再度取り付けて所定位置にロックします。

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットフックに固定したままの状態では、決してモーターサイクルを運転しないでください。ヘルメットをヘルメットフックに固定したままモーターサイクルに乗ると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 注意

ヘルメットを高温のサイレンサーに触れさせないでください。ヘルメットが損傷することがあります。

一般情報

Triumph アクセサリー D ロック 保管場所

Triumph アクセサリー D ロック（正規 Triumph デイラーで販売）を収納するためのスペースが、リアシートの下にあります。

ロックは以下のように固定します：

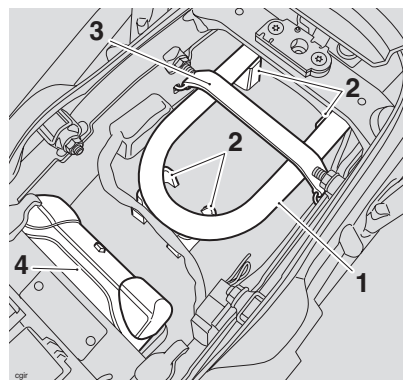
ツールキットを固定しているストラップを外します。

開口端がモーターサイクルの後部の方を向くようにして、ロックの U 字部をリアマッドガードのサポート機構にセットします。

下図のように、U 字部をツールキットストラップで固定します。

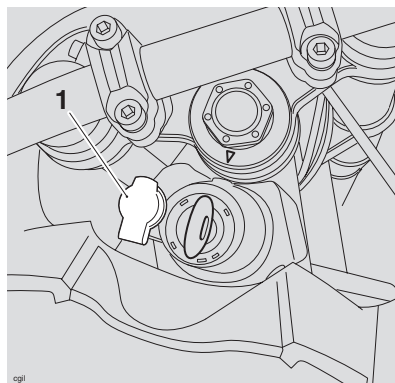
ロック本体をリアマッドガードのトレイにセットします。

リアシートを再度取り付け、ロック本体を固定します。



1. ロックの U 字部
2. リアマッドガードロックサポート機構
3. ツールキットストラップ（分かりやすいようにツールキットを取り外して図示）
4. ロック本体

電動アクセサリ用ソケット



1. 電動アクセサリ用ソケット

電動アクセサリ用ソケットがモーターサイクルに取り付けられており、イグニッションスイッチの隣りにあります。

このソケットは12 Vの電気を給電します。ソケットを保護しているのは 10 アンペアのヒューズであるため、10 アンペア以上の電流が必要な器具のプラグをソケットに差し込まないでください。

このアクセサリ用ソケットに適したプラグは、正規 Triumph デイラーで販売されています。

慣らし運転



「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km :

- ・ フルスロットルにしないでください。
- ・ 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- ・ 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- ・ 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- ・ 最高速度の 4 分の 3 を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで :

- ・ エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方 :

- ・ エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- ・ エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦悶」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- ・ 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

一般情報

安全運転

日常の安全点検



毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。



警告

毎日、走行する前にこれらの点検を行なうことを怠ると、モーターバイクに多大な損傷を与えるか、重大な人身事故を招く結果になりかねません。

点検：

燃料：タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（42ページ）。

エンジンオイル：オイルゲージ上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充。エンジンやオイルクーラーからの漏れがないか（78ページ）。

ドライブチェーン：適切な調整（88ページ）。

タイヤ/ホイール：空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗状態、タイヤ / ホイールの損傷、パンクなど（101ページ）。

ナット、ボルト、固定部品：ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり / 傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

ステアリングの動き：スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルに引っかかりがないか（97ページ）。

ブレーキ：ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー / ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検（92ページ）。

ブレーキパッド：すべてのパッドに 1.5 mm 以上のライニングがなければならぬ（93ページ）。

ブレーキフルードレベル：ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか（93ページ）。

一般情報

フロントフォーク：動きがスムーズか。フォークシールからの漏れはないか (98ページ)。

スロットル：スロットルグリップの遊びが 2 - 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか (84ページ)。

クラッチ：スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か (87ページ)。

クーラント：クーラントに漏れはないか。膨張タンク内のクーラントレベルを点検 (エンジンが冷えている時に) (81ページ)。

電装品：すべてのライトとホーンが適切に機能するか (35ページ)。

エンジン停止：ストップスイッチでエンジンが停止するか (56ページ)。

スタンド：パネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リターンスプリングが弱くないか、傷んでいないか (45ページ)。

一般情報

このページは意図的に空白にしています

モーターバイクの運転

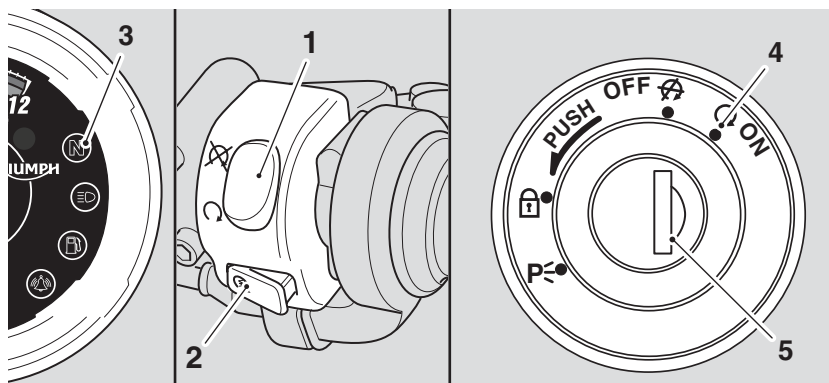
モーターバイクの運転

目次

エンジンの停止	56
エンジンの始動	56
発車	58
ギアチェンジ	58
ブレーキ操作	59
ABS (アンチロックブレーキシステム) - (装着されている場合)	61
駐車	63
高速走行の際の注意	64
一般事項	65
ステアリング	65
荷物	65
ブレーキ	65
タイヤ	65
燃料	65
エンジンオイル	65
クーラント	65
電装品	65
その他	65

モーターバイクの運転

エンジンの停止



1. エンジnstopスイッチ
2. スターターボタン
3. ニュートラル表示灯
4. ON ポジション
5. イグニッションスイッチ

スロットルを完全に戻します。

ニュートラルを選びます。

したがって、イグニッションスイッチをオフにします。

ローギヤに入れます。

固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。

ステアリングをロックします。



注意

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態ではイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

エンジンの始動

エンジンストップスイッチがRUNポジションにあることを確認してください。

確実にギアをニュートラルに入れてください。

イグニッションスイッチをオンにします。

注記：

- ・ イグニッションスイッチをオンにすると、タコメーターの針がゼロから最高にサッと上がってから再びゼロに戻ります。計器警告灯が点灯して直ぐに消えます（通常、エンジンが始動するまで点灯している計器を除きます—「警告灯」の 32 ページを参照）。エンジンを始動させるのに、針がゼロに戻るまで待つ必要はありません。

モーターバイクの運転

- ・ エンジンイモビライザーをオフにする、トランスポンダーがキーに内蔵されています。イモビライザーを正常に機能させるため、イグニッションスイッチの近くでは常にイグニッションキーを一つだけ持つようにしてください。イグニッションスイッチ近くでイグニッションキーを2個持つと、トランスポンダーとエンジンイモビライザー間の信号を妨害する場合があります。その場合、イグニッションキーを1個にするまでは、エンジンイモビライザーが作動したままとなります。
- ・ 厳寒時は、コールドスタートができるようにスロットルを半開きにします。エンジンがかかったら、スロットルを戻してください。

クラッチレバーを切ります。

スロットルを全閉にした状態で、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。

警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

注意

スターターを5秒以上継続して作動させないでください。スターターモーターが過熱してバッテリーが上がってしまうことがあるからです。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで15秒の間隔を置いてください。

エンジンを長い間アイドル状態にしておかないでください。過熱に至る恐れがあり、エンジン損傷の原因となることがあります。

注意

油圧低下警告灯は、エンジンが動き始めたらまもなく消えるはずですが。

エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

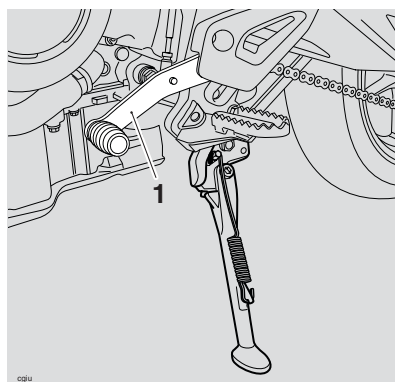
- ・ 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- ・ エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

モーターバイクの運転

発車

クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開き、クラッチレバーをゆっくりつなげます。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。

ギアチェンジ



1. ギアチェンジペダル

クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

⚠ 警告

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

モーターバイクの運転

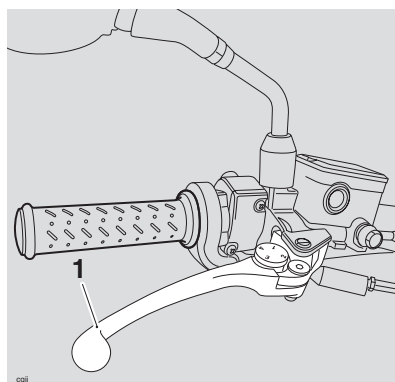
注記：

- ・ ギアチェンジの仕組みは「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを1回動かす毎に、ギアは上か下の方向に1段ずつ切り換わる仕組みです。

！ 警告

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。エンジン速度を確実に落として、低速ギアへの切り換えを行なう必要があります。

ブレーキ操作



1. フロントブレーキレバー

！ 警告

ブレーキをかける時は、以下の事を
守ってください：

モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

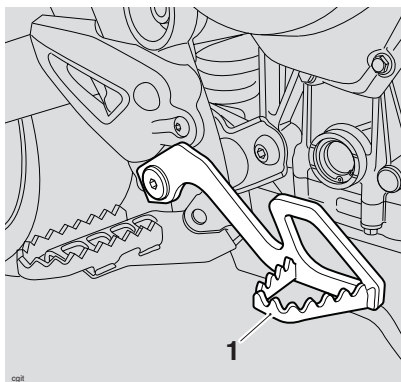
モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。

モーターバイクの運転



1. リアブレーキペダル

警告

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません（以下のまたは前ページの ABS 警告を参照）。

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

警告

注意が散漫になると制御不能に陥り事故を招く恐れがあるため、(ABS の有無を問わず) ブレーキ操作、加速、コーナリング時には安全のため十分注意してください。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると一方の車輪がロックする場合があります、モーターサイクルの制御がきかなくなって事故を招く恐れがあります（以下の ABS 警告を参照）。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

モーターバイクの運転

⚠ 警告

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯するため、他の道路使用者は表示を誤解する恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

柔らかい路面、濡れた路面またはぬかるんだ路面でモーターバイクを運転するときは、埃や泥や湿気がブレーキに付着し、ブレーキの効力が低下します。このような路面では早めにブレーキをかけ、ブレーキ動作を通してブレーキ表面が清浄であることを確認してください。ブレーキに埃や泥や湿気が付着した状態でモーターバイクを運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

ABS（アンチロックブレーキシステム） - （装着されている場合）

⚠ 警告

ABSが装着されていると車輪のロックを防ぐことができるので、非常時や滑りやすい路面の走行時にブレーキシステムの威力が最大限に発揮されます。ABSのおかげで特定の状況下でも短距離でのブレーキ制動が可能になるとはいえ、そうした形でABSに頼るのは良いことではありません。

常に法定制限速度内で走行してください。

注意散漫な状態で決して運転をせず、天候、道路状態、交通状況により、減速するべきときは減速してください。

コーナリングの時は注意してください。コーナリングの最中にブレーキをかけると、ABSでモーターバイクの重量と速力を抑制できません。そのため、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABSを装着したモーターバイクの方が、ABSを装着していない同等のモーターバイクより、長めの制動距離が必要となる場合もあります。

モーターバイクの運転

ABS 警告ランプ

ABS インジケータランプが点灯する時は、ABS 機能が使えないことまたは ABS がライダーによって解除されたことを示しています（27 ページを参照）。エンジンをスタートしてから最初に時速10 km/hを超えるまで、ランプが点灯しているのが正常な状態です。故障が発生しない限り、またはシステムを解除しない限り、エンジンを再びスタートさせるまで再び点灯することはありません。

それ以外で走行中にインジケータライトが点灯するのは、ABS に誤動作が生じたからであり、点検が必要です。



注記：

- ・ ライダーは通常、ブレーキレバーやペダルの硬めの感触や振動によって、ABS が作動したことに気づきます。ABS は統合ブレーキシステムではないので、フロントとリアブレーキとを同時には制御できず、レバーかペダル、場合によっては両方から振動が身体に伝わります。
- ・ 突然上り坂や下り坂になると、ABS が作動することがあります。



警告

ABS が機能していないと、ブレーキシステムが非ABS型ブレーキシステムとして作動し続けます。インジケータライトが点灯したままの状態、必要以上に長く走行を続けしないでください。故障が発生した場合は、できるだけ早く正規 Triumph デイラーに連絡し、故障を点検および修理してもらってください。このような状況で急ブレーキをかけると、ホイールがロックし、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。



警告

モーターサイクルのセンタースタンドを立てた状態で、リアホイールを高速で30 秒以上回転させると ABS 警告ライトが点灯します。この反応は正常です。イグニッションスイッチをオフにして、再びモーターサイクルを始動すると、モーターサイクルが時速30 km/hに達するまで警告ライトが点灯します。

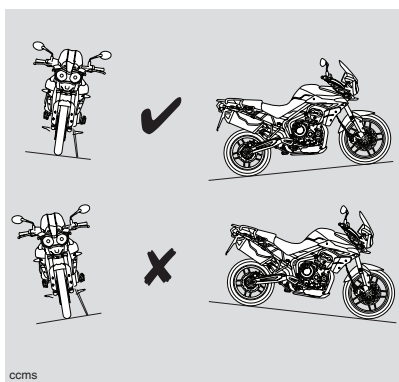


警告

ABS コンピューターがフロントとリアホイールの相対速度を比較します。推奨タイヤ以外のタイヤを使用すると、ホイールスピードに悪影響を及ぼしてABS機能が作動しなくなることがあり、そのため普通なら ABS が作動する状況下でも、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

モーターバイクの運転

駐車



ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターサイクルの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。これは、オフロードで駐車するときには特に重要です。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。バイクが動くのを妨げるためにギアをファーストに入れます。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6°以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- ・ 夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチをP (PARK) にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。

スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がることもあるからです。

警告

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

モーターバイクの運転

警告

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモーターバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

高速走行の際の注意

警告

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてもなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

警告

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

モーターバイクの運転

警告

以下に列挙された事柄は極めて重要な
ので、絶対に軽視してはなりません。普
通の速度で走行中は気づきもしないよ
うな問題が、高速走行時には大問題にな
りかねません。

一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整
備されてきていることを確認してくだ
さい。

ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎ
る部分もなく、スムーズに回転するか調べ
てください。コントロールケーブルがステ
アリングの邪魔にならないことを確認し
てください。

荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じて
ロックし、モーターバイクにしっかり固定
してください。

ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能し
ているか調べてください。

タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。
安全走行には、タイヤのコンディションが
良好であることが極めて大切です。タイヤ
の全体的な状態を調べ、適正空気圧になる
まで空気を入れて（タイヤが冷えた状態
で）、ホイールバランスを点検してくださ
い。タイヤ空気圧を点検した後、バルブ
キャップをしっかりとはめます。タイヤの
点検とタイヤの安全性確保に関しては、整
備の章と仕様の章の指示に従ってくだ
さい。

燃料

高速走行すると燃料の消費量が増大する
ので、燃料は十分用意してください。

注意

排気装置には、排ガスレベルを低減する
のに役立つ触媒コンバーターが取り付け
られています。燃料切れまたは燃料レ
ベルが著しく低下した状態でモーター
バイクを走行させると、触媒コンバー
ターに永久的な損傷を与える可能性が
あります。ツーリングに十分な量の燃料
を入れるようにしてください。

エンジンオイル

エンジンオイルのレベルが適正であるこ
とを確かめます。補充の際は、正しい等級
とタイプのオイルが使われていることを
確認してください。

クーラント

クーラントの液面が膨張タンクの上限ラ
インにきているか調べてください。（液面
レベルは、必ずエンジンが冷えている時に
点検します。）

電装品

ヘッドライト、テール / ブレーキライト、
方向指示灯、ホーン等、すべてが適切に作
動することを確認してください。

その他

締め具はすべて堅くしまっているか目で
点検します。

モーターバイクの運転

このページは意図的に空白にしています

アクセサリーと積載条件

アクセサリーと積載条件

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にして下さい。

荷物を載せた場合はヘッドライトを調整します。113ページを参照してください。

⚠ 警告

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量が以下の重量を絶対に超えないようにしてください：

Tiger 800 - 225 kg

Tiger 800XC - 223 kg

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、装着されたアクセサリーおよび積載荷物の重量を合計したものです。

⚠ 警告

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。また、自分が、照明具の可視度、ロードクリアランス、パンキング性能（すなわち傾斜角度）、コントロール走行、ホイールトラベル、フロントフォークの動き、あらゆる方向の視界、モーターバイク操縦に関わる他の要素に悪影響を与えていないことを確認してください。

⚠ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

⚠ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

アクセサリーと積載条件

⚠ 警告

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性がある伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください：

- ・ 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- ・ パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- ・ コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

⚠ 警告

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

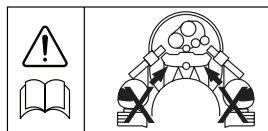
同乗者が乗っていると、モータバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかねばなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてもなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモータバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告

どんな物であろうと、フレームと燃料タンクの間に保管しようとしてはなりません。これはステアリングのじまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながる可能性があります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。



アクセサリーと積載条件

！ 警告

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

！ 警告

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は130 km/hより低減することを忘れないでください。

！ 警告

タンデムシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が5 kgを超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が5 kgを超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

たとえ小さな物が適切にリアシートに積載されているだけであっても、モーターバイクの最高速度は130 km/hまで落とす必要があります。

アクセサリーと積載条件

このページは意図的に空白にしています

整備と調整

目次

定期整備	74
エンジンオイル	78
オイルレベルの点検	78
オイルとオイルフィルターの交換	79
使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分	80
オイルの仕様と等級	81
冷却装置	81
腐食防止剤	81
クーラントレベルの点検	82
クーラントレベルの調整	83
クーラントの交換	83
ラジエーターとホース	83
スロットルコントロール	84
点検	85
調整	86
クラッチ	87
点検	87
調整	88
ドライブチェーン	88
チェーンの注油	89
チェーンのたるみ点検	89
チェーンのたるみ調整	90
チェーンとスプロケットの磨耗点検	91
ブレーキ	92
ブレーキの磨耗点検	92
新ブレーキパッドとディスクのすり合わせ運転	92
ブレーキパッドの磨耗補整	93
ディスクブレーキフルード	93
フロントブレーキフルードレベルの点検と調整	94
リアブレーキフルードのレベル点検と調整	95
ブレーキライトスイッチ	95

整備と調整

フロントガラスの清掃	96
ステアリング / ホイールベアリング	97
ステアリングの点検	97
ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検	97
ホイールベアリングの点検	98
フロントサスペンション	98
フロントフォークの点検	98
リアサスペンション	99
サスペンション設定値表 - Tiger 800 のみ	99
サスペンション設定値表 - Tiger 800XC のみ	99
リアサスペンションの調整	99
スプリングブリロードの調整	100
伸側減衰の調整 - Tiger 800XC モデルのみ	100
タイヤ	101
タイヤ空気圧	103
タイヤの磨耗	104
トレッドの推奨最小深度	104
タイヤの交換	105
バッテリー	107
バッテリーの取り外し	108
バッテリーの処分	108
バッテリーの整備	108
バッテリーの放電	108
モータバイクから外してあるバッテリーやほとんど乗らないモータバイクのバッテリーの整備	109
バッテリーの充電	109
バッテリーの取り付け	110
ヒューズボックス	110
ヒューズの識別	111
ヘッドライト	112
ヘッドライト	112
ヘッドライトの調整	113
ヘッドライトバルブの交換	114
リアライトライセンスプレートライト	115
リアライト／ライセンスプレートライトの交換	115

整備と調整

方向指示灯	115
バルブの交換	115
洗車	116
洗車の準備	116
注意すべき部分	116
洗車後	117
シートケア	117
塗装されていないアルミニウム部品	117
排気装置の清掃	117
洗浄	118
乾燥	118
保護	118

整備と調整

定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

！ 警告

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph デイラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規 Triumph デイラーで実施してください。

！ 警告

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動のモーターバイクは、コントロールが失われて事故を引き起こしかねません。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規 Triumph デイラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1年	20,000 2年	30,000 3年	40,000 4年
エンジンオイルクーラー ー 漏れ点検	日	●	●	●	●	●
エンジンオイル交換	－	●	●	●	●	●
エンジンオイルフィルター交換	－	●	●	●	●	●
バルブクリアランス点検 / 調整	－			●		●
エアクリーナー交換	－			●		●
オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを実施	－	●		●		●
エンジン ECM ー内蔵 DTC の点検			●		●	
ABS ECM ー内蔵 DTC の点検		●	●	●	●	●
スパークプラグー点検	－		●		●	
スパークプラグー交換	－			●		●
スロットルボディーバランス調整	－		●	●	●	●
スロットルケーブル点検 / 調整	日	●	●	●	●	●
冷却装置ー漏れ点検	日	●	●	●	●	●
クーラントレベル点検 / 調整	日	●	●		●	
クーラントー交換	－			●		●
燃料系統ー漏れ、擦り切れ、その他を点検	日	●	●	●	●	●
ライト、計器類&電装系統ー点検	日	●	●	●	●	●
ステアリングー作動状態点検	日	●	●	●	●	●
ヘッドストックベアリングー点検 / 調整	－		●	●	●	●
ヘッドストックベアリングー潤滑	－			●		●
フォークー漏れ / 作動状態点検	日	●	●	●	●	●

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1年	20,000 2年	30,000 3年	40,000 4年
フォークオイル交換	-					・
ブレーキフルードレベル点検	日	・	・	・	・	・
ブレーキフルード交換		2年ごと				
ブレーキパッド摩耗状態点検	日	・	・	・	・	・
ブレーキマスターシリンダーフルード漏れ点検	日	・	・	・	・	・
ブレーキキャリパーフルード漏れとピストンの焼き付き点検	日	・	・	・	・	・
リアサスペンションリンケージ - 点検 / 注油	-			・		・
ドライブチェーン潤滑注油		300キロごと				
ドライブチェーン摩耗点検		800キロごと				
ドライブチェーンのゆるみ点検 / 調整	日	・	・	・	・	・
ドライブチェーンラッピングストリッパー交換	-		・	・	・	・
締め具類 - 締め具合を目視点検	日	・	・	・	・	・
ホイール - 損傷がないか点検	日	・	・	・	・	・
ホイール - 壊れた又は損傷したスポークがないか点検、 スポークの締め付けを点検 (Tiger 800XC モデルのみ)	日	・	・	・	・	・
ホイールベアリング - 摩耗 / 作動状態の点検	-	・	・	・	・	・
タイヤの摩耗 / 損傷点検	日	・	・	・	・	・
タイヤ空気圧 - 点検 / 調整	日	・	・	・	・	・
クラッチケーブル点検 / 調整	日	・	・	・	・	・
スタンド作動状態点検	日	・	・	・	・	・
セカンダリー排気クランプボルト点検 / 調整	-	・	・	・	・	・
アクセサリラック用スライディングキャリッジ - 正 常に作動するか点検 †		・	・	・	・	・

整備と調整

整備内容	オドメーター上のキロ数または経過期間の いずれか先に達した方					
		初回整備	整備 A	整備 B	整備 C	整備 D
	毎	800 1ヶ月	10,000 1年	20,000 2年	30,000 3年	40,000 4年
アクセサリーパニアリンクバー - 正常に作動するか点 検および調整		•	•	•	•	•
燃料と蒸発ロス * ホース交換	-					•

* 特定市場でのみ装着されている蒸発システム。

† 装着されている場合のみ。

整備と調整

エンジンオイル

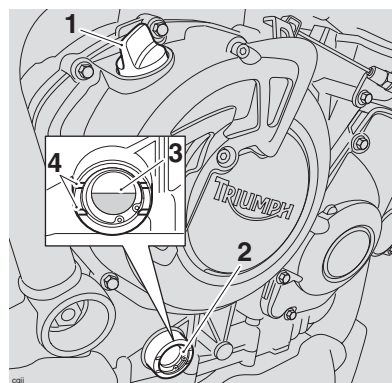


エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

警告

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンまたはトランスミッションが焼付きを起こすと、突然制御不能に陥って事故を起こしかねません。

オイルレベルの点検



1. フィラー
2. サイトガラス
3. オイルレベル（正しいレベルを示しています）
4. クランクケースのオイルレベルライン

警告

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排ガスは有毒です。短時間の内に意識を失って死を招く恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

注意

オイル不足の状態でエンジンを回転させると、エンジンを損傷します。油圧低下インジケーターがオンになったままの場合は、即座にエンジンを停止し、原因を詳しく調べてください。

整備と調整

エンジンを始動し、約5分間空転させます。
エンジンを止めてからオイルが落ち着くまで、少なくとも3分間待ちます。
サイトグラス越しに見えるオイルレベルに注意してください。

適正レベルの時は、サイトグラス越しに見える液面が、クランクケースについている上側の横線（最大）と下側の横線（最低）の間にあるはずです。

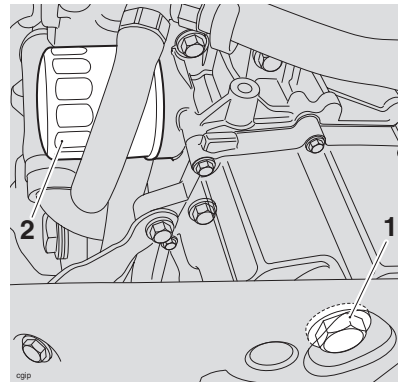
注記：

- ・ エンジンのオイルレベルは、エンジンが正常な作動温度でモーターサイクルが（サイドスタンドを使用した状態ではなく）真っすぐに立っているときにのみ、正確に表示されます。

オイルを補充する必要がある場合は、フィラープラグを外し、サイトグラス内の液面が適正レベルになるまで、少しずつオイルを足してください。

適正レベルになったら、フィラープラグを取り付けて締め付けます。

オイルとオイルフィルターの交換



1. オイルドレンプラグ
2. オイルフィルター

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。その上、使用済みエンジンオイルには発ガン性の有害汚染物質が含まれています。必ず適切な防護服を着用し、使用済みオイルが皮膚に触れないようにしてください。

エンジンを完全に暖めてから止め、モーターバイクを平らな地面に真っ直ぐに立てます。

エンジンの下にオイルドレンパンを置きます。

オイルドレンプラグを取り外します。

整備と調整

警告

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。オイルフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。

新しいオイルフィルターのシーリングリングに新しいエンジンオイルを薄く塗りつけます。オイルフィルターを取り付けて **10 Nm** で締め付けます。

オイルが完全に排出された後、新しいシーリングワッシャーをドレンプラグにはめます。プラグを取り付けて **25 Nm** まで締め付けます。

API SH（またはそれ以上）と JASO MA 仕様になつた半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターサイクル用エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）をエンジンに補充します。

エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

注意

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

注意

エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転しているのにこのランプが消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

エンジンが始動するとまもなく油圧低下警告灯が消えることを確認します。

エンジンを停止し、オイルレベルを再点検します。必要があれば調整します。

使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

オイルの仕様と等級

Triumph 高性能燃料噴射エンジンは、API SH (またはそれ以上) と JASO MA 仕様になった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターサイクル用エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40 (完全合成) を使用するよう設計されています。

エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。

鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。

冷却装置

効率的にエンジンを冷やすには、毎日モーターバイクに乗る前にクーラントレベルを点検し、液面が低くなっていたら補充してください。



注記：

- 年間を通じて、ハイブリッド有機酸テクノロジー (ハイブリッド OAT または HOAT) クーラントを冷却装置に注入した状態で、モーターバイクを工場より出荷しています。色はグリーンであり、50%濃度のエチレングリコール基の不凍液を含有し、凝固点は-35°C です。

腐食防止剤

冷却装置を腐食から護るために、クーラントに腐食防止剤を入れることが極めて重要です。

腐食防止剤の入っているクーラントを使わなければ、冷却装置のウォータージャケットやラジエターに錆びや湯垢がたまります。これはクーラントの通路を塞いで、冷却装置の能率を著しく低下させます。

整備と調整

警告

アルミニウムエンジンとラジエーターに適した、腐食防止剤と不凍剤入りのHD4XハイブリッドOATクーラントを使ってください。必ず、メーカーの指示に従って不凍剤を使ってください。

不凍剤と腐食防止剤が混ざったクーラントには、人体に有害な有毒物質が含まれています。不凍剤やモーターバイクのクーラントは、絶対に飲み込まないでください。

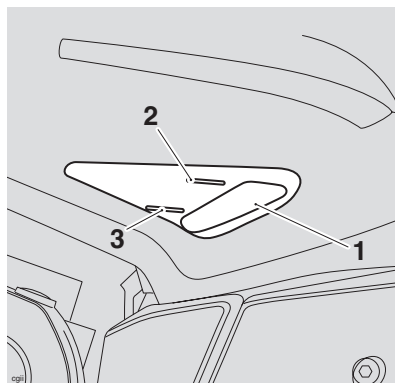
注記：

- Triumphが供給するHD4XハイブリッドOATクーラントは事前に混合してあるので、冷却装置への補充や注ぎ足し時に希釈する必要はありません。

クーラントレベルの点検

注記：

- クーラントレベルは、エンジンが冷えている（室温または大気温度と同じ状態）時に調べる必要があります。



1. 膨張タンク
2. MAX（上限）マーク
3. MIN（下限）マーク

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。膨張タンクは、モーターバイクの右側から見ると、燃料タンク下方の前部にあるのが見えます。

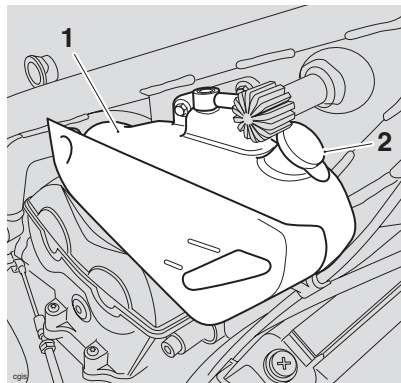
膨張タンク内のクーラントレベルを調べます。クーラントレベルは、MAX と MIN マークの間になければなりません。クーラントレベルが下限マークより下にある場合は、調整する必要があります。

整備と調整

クーラントレベルの調整

⚠ 警告

エンジンが高温になっている時は、膨張タンクキャップやラジエーターキャップを外さないでください。エンジンが暖まっていると、ラジエーター内のクーラントの温度が高く、加圧状態になっています。高温、高圧のクーラントに触れると、火傷をしたり皮膚を傷めたりすることがあります。



1. 膨張タンク（分かりやすいように燃料タンクを外した状態で表示）
2. 膨張タンクキャップ

エンジンが冷めるのを待ちます。

膨張タンクキャップは、燃料タンク前部とフレームの間にあり、モーターサイクルの右側から外せます。

膨張タンクからキャップを外し、液面レベルがMAX（上限）マークに達するまで、補給口からクーラント混合液を補充します。キャップを再び取り付けます。

注記：

- ・クーラントの過熱が原因でクーラントレベルを点検するのであれば、ラジエーター内の液面レベルも点検し、必要があれば補充してください。
- ・緊急で止むをえない場合には、冷却装置に希釈水を補充しても構いません。ただし、なるべく早めにクーラントを抜き取り、HD4X ハイブリッド OAT クーラントを補充してください。

⚠ 注意

冷却装置に硬水を使用すると、エンジンやラジエーターに酸化膜が蓄積して、冷却装置の効率を著しく低下させます。冷却装置の効率が低下すると、エンジンを過熱させて多大な損傷を与えることになりかねません。

クーラントの交換

定期整備表の指示に従い、正規 Triumph ディーラーに依頼してクーラントに交換してもらってください。

ラジエーターとホース

定期整備表の指示に従って、ラジエーターホースに亀裂や劣化がないか、ホースクリップが硬くなっていないか点検してください。欠陥のあるものは、正規 Triumph ディーラーに付け替えてもらってください。

ラジエーターグリルとフィンに昆虫や枯葉、泥などが詰まっていないか点検してください。低圧の放水で詰まっているゴミを洗い流してください。

整備と調整

⚠ 警告

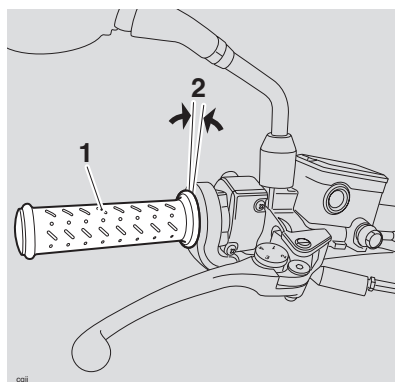
ファンは、エンジンが回転している間は、自動的に作動します。常に手や衣服をファンから遠ざけておいてください。回転中のファンに触れると負傷する可能性があります。

⚠ 注意

洗車場にある高圧ウォータースプレーや家庭用の加圧洗浄機を使うと、ラジエターフィンに損傷を与えて漏れやラジエターの能力低下を引き起こす可能性があります。

承認されていないアクセサリをラジエターの前や冷却ファンの後ろに装備して、ラジエターを通る空気の流れを遮断したり、そらせたりしないでください。ラジエターの空気の流れを妨げると、過熱してエンジンに損傷を与える恐れがあります。

スロットルコントロール



1. スロットルグリップ
2. 適切な設定値 2 - 3 mm

⚠ 警告

スロットルグリップは、スロットルボディ内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆる過ぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行ってください。

整備と調整

！ 警告

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph デイラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、引っかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph デイラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。

スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに 2 - 3 mm の遊びがあるかを調べてください。

遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph デイラーにしてもらうことをお勧めします。しかしながら、非常時の場合は、以下の手順でスロットルを調整できます：

点検

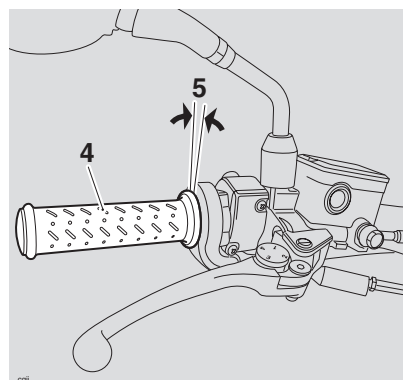
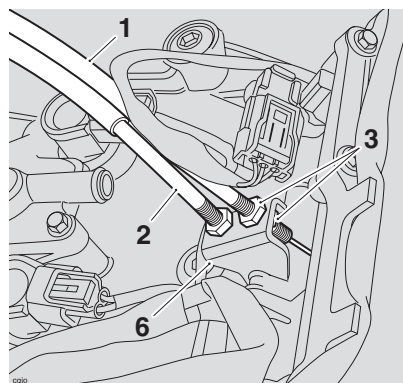
！ 警告

調整や配線が不適当になされていたり、滑らかに動かないあるいは損傷しているスロットルケーブルを装着したモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰することがあります。

不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph デイラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

整備と調整

調整



1. オープニングケーブル
2. クロー징ケーブル
3. オープニングケーブルアジャスター
ロックナット
4. スロットルグリップ
5. オープニングケーブルー遊び測定ポイント
6. クロー징ケーブルー遊び測定ポイント

シートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

燃料タンクを取り外します。

「オープニング」ケーブルアジャスターのロックナットをゆるめます。

両方向に均等に調節されるように、ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを回します。

ツイストグリップに2 - 3 mmの遊びをもたせるため、ケーブルのスロットルボディー側にある「オープニング」ケーブルアジャスターを回します。ロックナットを締め付けます。

ケーブルのスロットルグリップ近くのアジャスターで微調整を行い、2 - 3 mmの遊びをもたせてください。アジャスターロックナットを締めます。

スロットルを完全に絞った状態で、スロットルボディーに取り付けられているスロットルカムのところ、「クロー징」ケーブルに2 - 3 mmの遊びがあることを確かめます。必要があれば、「オープニング」ケーブルと同じ要領で、2 - 3 mmの遊びをもたせるように調整してください。アジャスターロックナットを締めます。



警告

ロックナットがゆるんでいると、スロットルがスムーズに動かなくなる恐れがあるので、ケーブルのアジャスターロックナット全部を確実に締め付けてください。

スロットルの調整が不適切で、引っかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

燃料タンクを再装備します。

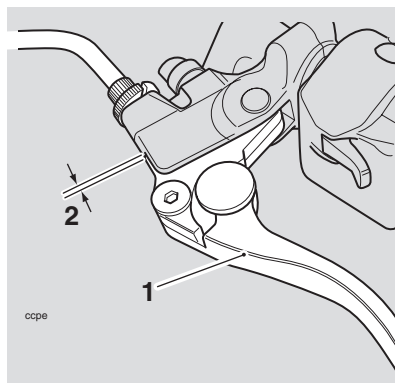
プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

ライダーシートを再び取り付けます。

スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、引っかからずに絞れるかを調べてください。

走行を再開する前に、最寄りの正規Triumphディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

クラッチ



1. クラッチレバー

2. 2 - 3 mm

本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大き過ぎると、クラッチが完全に切れない恐れがあります。そうすると、ギヤチェンジやニュートラルに入れる際に困難が生じることがあります。これは、エンストやモーターバイクを制御困難な状態に陥らせる原因になりかねません。

逆に、クラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチが完全にかみ合わずに、スリップを招く恐れがあります。これは、クラッチの性能を低下させ、磨耗を早める原因になることがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

点検

レバーのところでクラッチレバーに2 - 3 mmの遊びがあるか調べてください。遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

整備と調整

調整

クラッチレバーの遊びが適切になるまで、アジャスタースリーブを回してください。レバーアジャスターで適切な調整ができない場合は、ケーブルの下端にあるケーブルアジャスターを使ってください。

アジャスターロックナットを緩めます。

クラッチレバーのところに 2 - 3 mm の遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。

ロックナットを締め付けます。

ドライブチェーン



ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。塩分や砂が多いといった極端にコンディションの悪い道路の場合、点検、調整、注油を通常より頻繁に行なってください。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも) 調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。磨耗や損傷したチェーンの場合、速やかに正規 Triumph ディーラーで供給している純正 Triumph パーツに替えてください。

警告

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンプロケットに絡まったチェーンでケガをしたり、モーターバイクのバランスを崩して事故になる恐れがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

整備と調整

チェーンの注油

チェーンは 300 km 走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

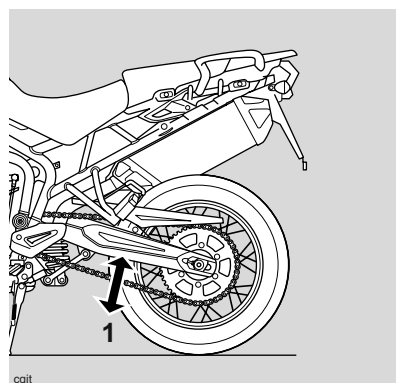
ローラー両側に潤滑油を注油し、8 時間が経つまではモーターバイクに乗らないでください（一晩置くのが理想的）。そうすることにより、チェーン O リングなどにオイルがゆきわたります。

乗る前に、余分なオイルを拭き取ります。チェーンの汚れが特にひどい時は、まず汚れを落とし、それから前述の要領で注油します。

⚠ 注意

チェーン系コンポーネントを損傷するので、チェーンの汚れ落としに加圧洗浄機を使わないでください。

チェーンのたるみ点検



1. 最大ムーブメントポジション

⚠ 警告

作業を開始する前に、モーターバイクが安定しており、適切に支えられていることを確かめてください。作業者をケガから守り、モーターバイクが損傷するのを防ぎます。

平らな場所にモーターバイクを置き、積載せずに真っ直ぐ立てます。

モーターバイクを押してリアホイールを回転させ、チェーンが最もきつくなるポイントを見つけ、2 枚のスプロケットの中間でたるみを測定します。

整備と調整

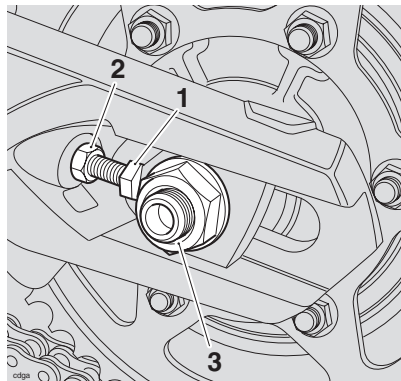
チェーンのたるみ調整

Tiger 800

ドライブチェーンの垂直方向のたるみは、15 - 25 mm の範囲でなければなりません。

Tiger 800XC

ドライブチェーンの垂直方向のたるみは、20 - 30 mm の範囲でなければなりません。



1. アジャスターボルト
2. アジャスターボルトロックナット
3. リアホイールスピンドルナット

ホイールスピンドルナットを緩めます。
左右のチェーンアジャスターボルトのロックナットを緩めます。
両アジャスターを均等に調整する形で、チェーンのたるみを大きくする場合はアジャスターボルトを時計回りに、小さくする場合は反時計回りに回します。

チェーンのたるみが適切なものになったら、アジャスターとびったり接するようにホイールを押します。両アジャスターロックナットを **20 Nm** で、リアホイールスピンドルナットを **110 Nm** で締め付けます。

チェーンの調整点検を繰り返します。必要な場合は再調整します。

警告

アジャスターロックナットが締まっていなかったり、ホイールスピンドルが緩んでいた状態では、バイクの安定性と操縦性が損なわれることになりかねません。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

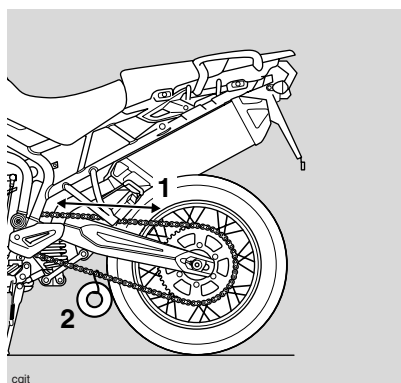
リアブレーキの効き具合を調べてください。必要があれば直します。

警告

ブレーキに欠陥のある状態でモーターサイクルを運転するのは危険です。走行を再開する前に、正規 Triumph ディーラーに点検修理してもらってください。点検修理をしなかった場合、ブレーキ効率が低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

整備と調整

チェーンとスプロケットの磨耗点検



1. 20 環分を測定
2. おもり

チェーンガードを取り外します。

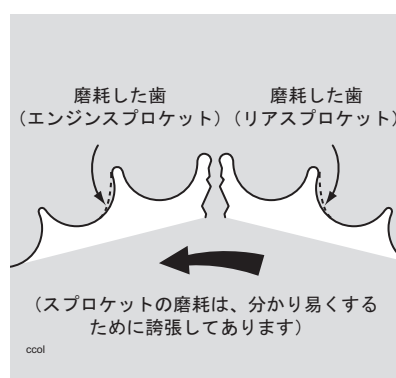
チェーンに 10 - 20 kg のおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。

1 番目のピンの中心から 21 番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。

長さが使用限度である 319 mm を超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。

リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。

スプロケットの歯が不揃いになっていないか、過度に磨耗していないか、歯が欠けていないかといったことも点検してください。



異常があった場合、最寄りの正規 Triumph ディーラーにドライブチェーンやスプロケットを交換してもらってください。

チェーンガードを交換します。

⚠ 警告

認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。

Triumph パーツカタログに記載されているように、純正 Triumph 供給チェーンを使ってください。

チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規 Triumph ディーラーに実施してもらってください。

整備と調整



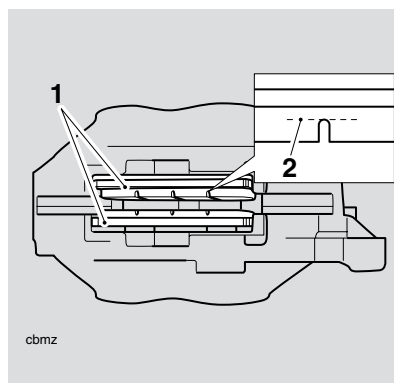
注意

スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。

チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

ブレーキ

ブレーキの磨耗点検



1. ブレーキパッド

2. 厚さの下限ライン

ブレーキパッドを定期整備表に基づいて点検し、許容範囲を超えて摩耗していたら交換してください。

フロント又はリアブレーキのいずれかのパッドのライニング厚さが 1.5 mm 以下になっていたら、つまり、パッドが溝の底まで磨耗していたら、そのホイールのパッドを全部交換してください。

新ブレーキパッドとディスクのすり合わせ運転

交換用ブレーキディスクおよび / またはパッドをモーターサイクルに取り付けた後、ディスクとパッドの性能を最適化し、耐用寿命が長くなるように、慎重に一定期間すり合わせ運転を行うこと推奨します。新パッドとディスクのすり合わせ運転の推奨距離は 300 km です。

整備と調整

新ブレーキディスクおよび/またはパッドを取り付けた後は、急ブレーキを避け、慎重に運転し、すり合わせ運転期間は制動距離を長めに取ってください。

⚠ 警告

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合、同じホイールにキャリパーが2つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッドを全部交換してください。パッドを個々に交換すると、制動効率が低下し、事故を招く恐れがあります。ブレーキパッドを交換した直後は、新しいパッドが「よく馴れる」まで、慎重に運転してください。

⚠ 警告

モーターサイクルをオフロードで頻繁に使用すると、ブレーキパッドの摩耗が進みます。モーターサイクルをオフロードで使用する場合は、必ずブレーキパッドを頻繁に点検し、最低限度の薄さになるまでまたは最低限度の薄さを超えるまで摩耗する前に交換しなければなりません。ブレーキパッドが摩耗した状態でモーターサイクルを運転すると、ブレーキ効率が低下し、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとブレーキパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの動きに影響を及ぼしません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

⚠ 警告

ブレーキをかけた時に、ブレーキレバーやペダルがソフトに感じられたり、あるいはレバー/ペダルの遊びが大きすぎる場合、ブレーキパイプに空気が入っているか、ブレーキに欠陥がある恐れがあります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。必ず、走行前に最寄りの正規Triumphディーラーに故障を修理してもらってください。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

ディスクブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。仕様の章で推奨されているように、DOT 4のブレーキフルードだけを使ってください。ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合も、ブレーキフルードを交換する必要があります。

整備と調整

警告

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

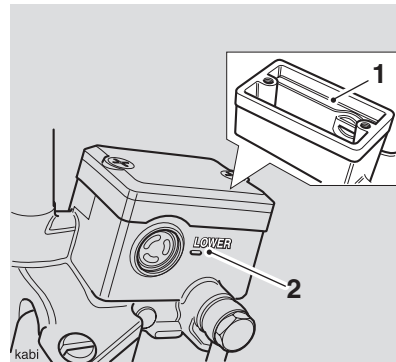
必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていないか、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

フロントブレーキフルードレベルの点検と調整



1. フロントブレーキフルードリザーバ、上限ライン
2. 下限ライン

リザーバ内のブレーキフルードレベルは、常に、上限と下限を示す2本の線の間になくってはなりません（リザーバは水平の状態）。

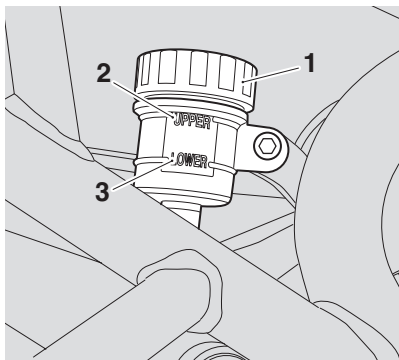
フルードレベルを点検するには、リザーバ本体前面にある窓でフルードレベルをチェックします。

フルードレベルを調整するには、キャップのねじをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を書きとめて、カバーを取り外します。

新品のDOT 4のブレーキフルードを密閉容器からリザーバへ、上限ラインに達するまで補充してください。

ダイアフラムシールがキャップとリザーバ本体の間に正しく置かれていることを確かめながら、カバーを再度取り付けます。キャップ止めネジを **1.5 Nm** で締め付けます。

リアブレーキフルードのレベル点検と調整



1. リアブレーキフルードリザーバ
2. 上限ライン
3. 下限ライン

フルードレベルの点検：

リザーバは、中間排気管の前方、ライダーシートの下方面にあるのが、モーターサイクルの右側から見えます。

フルードレベルの調整：

リザーバキャップを取り外してください。新品のDOT 4のブレーキフルードを密閉容器からリザーバへ、上限ラインに達するまで補充してください。

ダイヤフラムシールが正しく取り付けられていることを確認し、リザーバキャップを取り付けます。

警告

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく下がっていた場合は、走行前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談し、アドバイスを受けてください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。イグニッションを ON ポジションにした状態でブレーキレバーを引いたり、リアブレーキペダルを踏んだりしてもブレーキライトが点灯しない場合、正規 Triumph ディーラーに不具合の点検と修理を依頼してください。

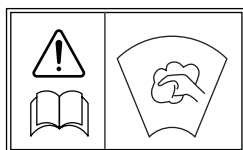
警告

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

整備と調整

フロントガラスの清掃



ウィンドスクリーンは、弱性石鹼か洗剤の溶液とぬるま湯で汚れを落としてください。洗浄後はよくすすぎ、柔らかく糸くずの出ない布で拭いてください。

⚠ 注意

ウィンドウの洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、あるいはアルコール、アセトン、四塩化炭素などのような洗浄力の強い溶剤は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。絶対にこれらの製品をスクリーンに触れさせないでください。

除去できないひっかき傷や酸化により、ウィンドスクリーンの透明度が落ちてきた場合、ウィンドスクリーンは交換する必要があります。

⚠ 警告

モーターバイクが走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとしてはなりません。ハンドルから手を離すと車両は制御不能に陥って、事故を引き起こしかねないからです。

ウィンドスクリーンに損傷やひっかき傷のある状態でモーターバイクを運転すると、ライダーの視界が悪くなります。視界が悪いと危険であり、人身事故を引き起こしかねません。

⚠ 注意

バッテリー液などの腐食液はフロントガラスを損ないます。絶対に、腐食性化学物質をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

ステアリング / ホイールベアリング

⚠ 注意

点検中にモーターバイクが倒れて負傷することのないように、モーターバイクがしっかりと適切な支えの上に固定されていることを確認してください。それぞれのホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になり、支えから落下して怪我のもととなりかねません。

支えのブロックが、サンプに損傷を与えない場所に置かれていることを確かめてください。

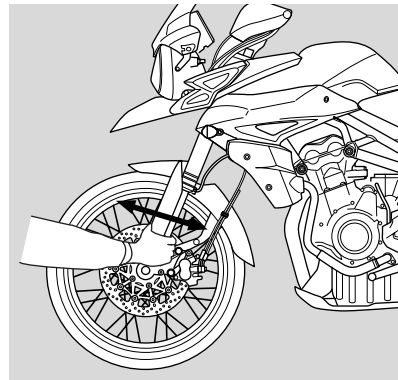
ステアリングの点検

定期整備表の指示に従って、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの状態の点検と注油を行なってください。

注記：

- ・ ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングの遊び点検



ステアリングの遊びの点検

点検

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの前に立ってフロントフォークの下側を持ち、前後に動かしてみます。

ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに遊びがある場合は、運転する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーに点検と、あれば故障の修理を依頼してください。

⚠ 警告

調整が不適切だったり、ステアリング（ヘッドストック）ベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクのコントロールが失われ、事故を引き起こしかねません。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

整備と調整

ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。

フロントホイールを地面から浮かせ、モーターバイクを支えます。

モーターバイクの横に立って、フロントホイールの上部を静かに左右にゆすります。走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumphディーラーに依頼してください。

ジャッキの位置を変え、リアホイールも同じ手順で点検します。

⚠ 警告

フロント又はリアホイールベアリングに磨耗や損傷のある状態で運転することは危険であり、操縦性と安定性が損なわれて事故につながる恐れがあります。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

フロントサスペンション

フロントフォークの点検

それぞれのフォークに損傷のしるしがないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。

損傷や漏れが見つかった場合は、正規Triumphディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- ・ モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ・ ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。
- ・ 動きが滑らかでなく、過度な硬さを感じられる場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにご相談ください。

⚠ 警告

サスペンションに欠陥や損傷のある状態でモーターバイクを運転することは危険であり、コントロールが失われて事故につながりかねません。

⚠ 警告

サスペンションユニットは、どの部分であつても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

整備と調整

リアサスペンション

サスペンション設定値表 - Tiger 800 のみ

積載状態	スプリングプリロード ¹
単独走行	30
ライダーと荷物	0
ライダーと同乗者、 またはライダーと同乗者と荷物	0
¹ 時計回りに回しきった位置（最強）から反時計回りに回してカチッと音がした数。	

サスペンション設定値表 - Tiger 800XC のみ

積載状態	スプリングプリロード ¹	伸側減衰 ²
単独走行	24	1.5
ライダーと荷物	0	1
ライダーと同乗者、または ライダーと同乗者と荷物	0	0.5
オフロードでの使用	0	0.5
¹ 時計回りに回しきった位置（最強）から反時計回りに回してカチッと音がした数。		
² 時計回りに回しきった位置（最強）から反時計回りに回した数。		

サスペンション設定を標準にすれば、通常の単独走行の時に快適な乗り心地と優れたハンドリング特性をもたらします。上表はリアサスペンションの推奨設定値です。スプリングプリロードが増せば、硬めのダンピングが必要となり、弱めれば軟らかめダンピングが必要となります。

ダンピングは路面状態およびスプリングプリロードに合わせてなければなりません。



警告

フロントとリアサスペンションの間に適当なバランスが保たれていることを確認してください。サスペンションの不釣合いは、ハンドリング特性に著しい変化をもたらす可能性があり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。詳細についてはフロントおよびリアサスペンション設定値表を参照していただくか、正規販売店にお問い合わせください。

注記：

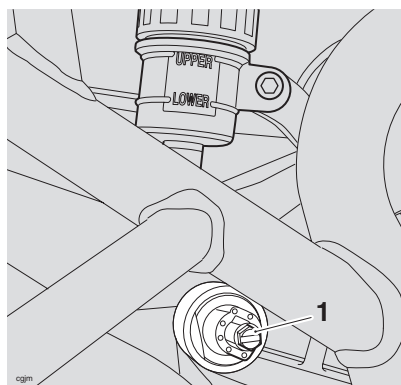
- ・ 関連サスペンション表に示したように、Tiger 800 と Tiger 800XC は、リアサスペンションを標準設定にして工場から出荷されます（99ページを参照）。
- ・ 表は目安に過ぎません。ライダーの体重や好みにより、設定要件は変わります。サスペンションの調整については、次ページ以降を参照してください。

リアサスペンションの調整

Tiger 800 のリアサスペンションユニットはスプリングプリロードの調整が可能です。Tiger 800XC のリアサスペンションユニットは、スプリングプリロードと伸側減衰が調整可能です。

整備と調整

スプリングプリロードの調整



1. スプリングプリロードアジャスター

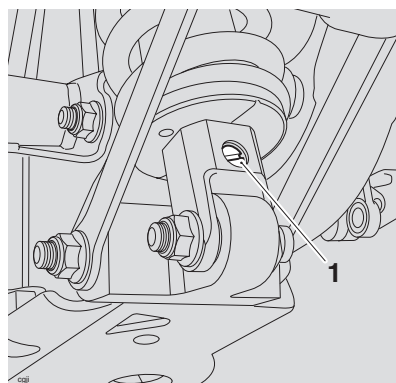
スプリングプリロードアジャスターは、モーターサイクルの右側、リアサスペンションユニットの最上部にあります。

スプリングプリロードの設定を調整するには、スロット付きアジャスターを時計回りに回してスプリングプリロードを増すか、反時計回りに回してスプリングプリロードを小さくします。

注記：

- この設定は、アジャスターを時計回りに回し切った位置（最強）から反時計回りに回してカチッと音を立てた数で計ります。
- Tiger 800 は、スプリングプリロードを時計回りに回しきった位置から反時計回りに回して 30 回カチッと音をたてた位置に設定した状態で工場をから出荷されます。
- Tiger 800XC は、スプリングプリロードを時計回りに回しきった位置から反時計回りに回して 24 回カチッと音をたてた位置に設定した状態で工場をから出荷されます。

伸側減衰の調整— Tiger 800XC モデルのみ



1. 伸側減衰アジャスター

伸側減衰アジャスターは、リアサスペンションユニットの最下端にあり、モーターサイクルのどちら側からも作業できます。

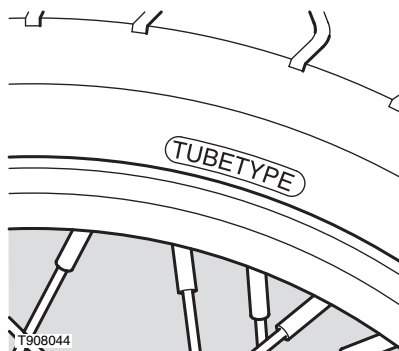
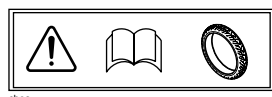
伸側減衰の設定を調整するには、スロット付きアジャスターを時計回りに回して伸側減衰を増すか、反時計回りに回して伸側減衰を小さくします。

注記：

- この設定は、アジャスターを時計回りに回し切った位置（最強）から反時計回りに回した数で計ります。
- Tiger 800XC は、伸側減衰アジャスターを時計回りに回し切った位置から 1.5 回転反時計回りに回した位置に設定した状態で工場から出荷されます。

整備と調整

タイヤ



典型的なタイヤマーク

Tiger 800XC モデルには、インナーチューブを付けて使用するのに適したタイヤを必要とするスポーク付きホイールが装着されています。

警告

スポーク付きホイールでインナーチューブを装着しなかった場合、タイヤの空気圧が下がり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

Tiger 800 モデルには、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムが装着されています。「TUBELESS (チューブレス)」のマークのついたタイヤとチューブレスバルブのみを、「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES (チューブレスタイヤに適合)」のマークのついたホイールリムに使用してください。

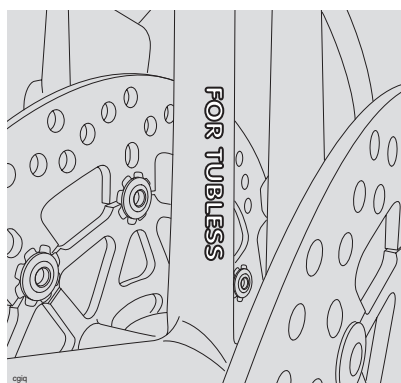
警告

チューブレスリムにチューブ式タイヤを取り付けしないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの空気圧低下が早まって、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤ空気圧が低下して、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

整備と調整



典型的なタイヤマーク-チューブレスタイヤ



ホイールマーク-チューブレスホイール

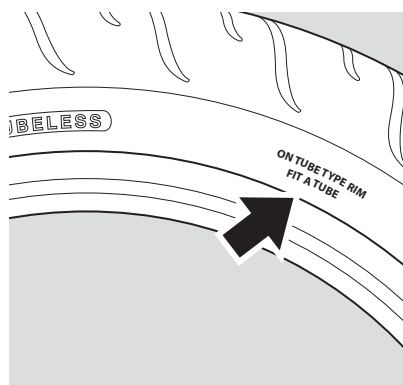
警告

インナーチューブは、スポーク付きホイールと「TUBE TYPE(チューブタイプ)」のマーク付きタイヤを装着したモーターサイクルだけに使用します。

「TUBELESS (チューブレス)」というマークの付いた認定タイヤでも、ブランドによっては、インナーチューブを入れて使うのに適している場合があります。このような場合、タイヤウォールには、インナーチューブの取り付けを許可するという文言が印されています（下図を参照）。

「TUBELESS (チューブレス)」のマーク付きタイヤや、インナーチューブの使用に適合というマークの付いていないタイヤにインナーチューブを使ったり、「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES (チューブレスタイヤに適合)」のマーク付き合金ホイールにインナーチューブを使用したりすると、タイヤ空気圧の低下の原因となり、モーターサイクルが制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

整備と調整



典型的なタイヤマーカーインナー
チューブに適したチューブレスタイ
ヤ

タイヤ空気圧

適正なタイヤ空気圧は、最大限の安定性と快適な乗り心地をもたらす、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行ってください。タイヤ空気圧は毎日点検し、必要に応じて調整してください（適切な空気圧に関しては仕様の章を参照してください）。あるいは、正規 Triumph デイラーで、ホイールとタイヤを点検してもらってください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム（装着されている場合）

計器に表示されるタイヤ空気圧は、タイヤ空気圧表示を選択した時のタイヤ空気圧です。運転中にタイヤが温められてタイヤ内の空気が膨張し空気圧が高まるため、タイヤが冷えている時に設定した空気圧とは異なる場合があります。Triumph が規定した冷間タイヤ空気圧は、これを考慮に入れています。

タイヤ空気圧の調整は、正確なタイヤ空気圧計を使用してタイヤが冷えているときに行ってください。計器に表示されたタイヤ空気圧を見て調整しないでください。

！ 警告

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗し安定性に問題が生じて、コントロールが失われ、事故につながる恐れがあります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があるからです。

！ 警告

タイヤ空気圧がオフロード走行によって低下すると、オンロードでの安定性が損なわれます。オンロードで使用するときは、必ず仕様の章に記載されているようにタイヤ空気圧を設定してください。タイヤ空気圧が不適切なままでモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

整備と調整

タイヤの磨耗



タイヤのトレッドが磨耗するにつれ、タイヤはパンクしやすくなります。タイヤの問題の 90%は、トレッドの寿命が尽きる前の 10% (90%磨耗) の期間に発生していると推定されます。したがって、トレッドの許容深度ギリギリまでタイヤを使用しないでください。

トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

時速 130 km/h 以下	2 mm
時速 130 km/h 以上	リア 3 mm フロント 2 mm

！ 警告

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

！ 警告

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなつて事故を引き起こすことがあります。

！ 警告

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

タイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクあるいは損傷しているタイヤを付けて運転すると、安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、そのため制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

リムにへこみや変形がないか、スポークにゆみや損傷がないかを点検してください。損傷や欠陥のあるホイール、スポーク、タイヤを付けての運転は危険であり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

タイヤの交換やホイール、スポーク、タイヤの安全点検については、必ず正規Triumph ディーラーにご相談ください。

整備と調整

タイヤの交換

⚠ 警告

インナーチューブは、スポーク付きホイールと「TUBE TYPE (チューブタイプ)」のマーク付きタイヤを装着したモーターサイクルだけに使用します。

「TUBELESS (チューブレス)」というマーク付きのタイヤや合金ホイールと共にインナーチューブを使用すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

チューブレスリムにチューブ式タイヤを取り付けしないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの空気圧低下が早まって、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤ空気圧が低下して、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

注記：

- ・ 「TUBELESS (チューブレス)」というマークの付いた認定タイヤでも、ブランドによっては、インナーチューブを入れて使うのに適している場合があります。このような場合、タイヤウォールには、インナーチューブの取り付けを許可するという文言が印されています。

Triumph 製のモーターサイクルはすべて、モデル毎に最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、認可されている組み合わせで取り付けられている認可タイヤとインナーチューブ（取り付けてある場合）を選ぶことが極めて大切です。認可されていないタイヤとインナーチューブを使ったり、あるいは、認可タイヤとインナーチューブを認可されていない組み合わせで使うと、モーターサイクルは不安定になり、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

ABS を装着したモデルの場合、認可されていないタイヤを取り付けるとホイール速度の違いが生じ、ABS コンピューターの機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。

認可タイヤとインナーチューブの組み合わせの詳細については、仕様の章を参照してください。タイヤとインナーチューブの取り付けとバランス調整は、必ず、安全で効果的な取り付けを保証するために必要なトレーニングを受け技術を修得した正規 Triumph ディーラーに依頼してください。

タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS が装着されているモデルのみ)

⚠ 注意

タイヤ空気圧センサーの位置を示すために、粘着ラベルがホイールリムに貼り付けてあります。タイヤ交換時にタイヤ空気圧センサーを傷つけないように注意してください。タイヤは必ず正規 Triumph ディーラーに取り付けてもらい、タイヤ空気圧センサーがホイールに取り付けてあることを通知してください。

整備と調整

⚠ 警告

パンクしているタイヤ又はインナーチューブは交換しなくてはなりません。パンクしたタイヤやインナーチューブを交換しないまま、あるいは修理したタイヤやインナーチューブを装着して走行すると、モーターサイクルが不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

縁石にぶつかった後などでタイヤやインナーチューブに損傷の疑いがある場合は、正規 Triumph ディーラーにタイヤの内側と外側の両方の点検とインナーチューブの点検もしてもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままでモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

タイヤやインナーチューブの交換が必要な時は、正規 Triumph ディーラーに相談してください。認可リストの中から正しい組み合わせのタイヤとインナーチューブを選択し、タイヤとインナーチューブのメーカーの指示に従って取り付けを行なう手筈を整えてくれます。タイヤとインナーチューブを交換した後、それぞれがリムに落ちつくまでに時間が掛かります（約 24 時間）。落ち着くまでの間は慎重に運転してください。タイヤとインナーチューブがきちっとはまっていないと、モーターサイクルは不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

新しいタイヤとインナーチューブは最初のうちは摩耗したタイヤとインナーチューブとは異なったハンドリング特性を示します。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるために、十分な距離（約 160 km）を走行しなくてはなりません。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ空気圧を調べて調整し、タイヤとインナーチューブが正しくはめ込まれているか点検しなくてはなりません。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 km 走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

不適切に装着されたタイヤやインナーチューブを付けたままで、またはタイヤ空気圧の調整が不適切な状態で、あるいはハンドリング特性になじんでいない時にモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

ローリングロードダイナモメーター上で使用されてきたタイヤとインナーチューブは、損傷を受けている危険があります。タイヤは、外観をただけでは損傷が分からないことがあります。そのような使い方をした後のタイヤとインナーチューブは交換しなければなりません。損傷のあるタイヤやインナーチューブを使い続けると不安定になり、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

⚠ 警告

モーターサイクルの安全で安定した操縦性には、正確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。ホイールバランスの調整が必要な時は、例えばタイヤとインナーチューブを交換した後など、正規 Triumph デイラーにご相談ください。自己接着型のウェイト以外は使わないでください。クリップオンウェイトを使用すると、ホイールやタイヤまたはインナーチューブが損傷してタイヤの空気圧が低下し、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは引火性のガスを発生させる場合があります；火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸（バッテリー液）が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

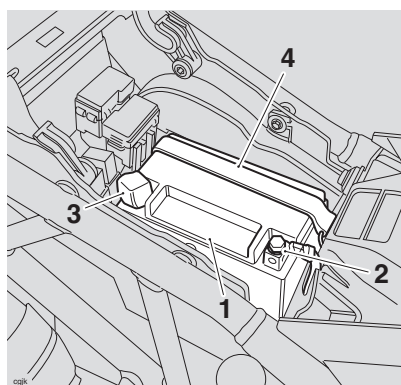
⚠ 警告

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーにジャンプリードを付けたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。そのようなことをすると火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故を起こす危険があります。

整備と調整

バッテリーの取り外し



1. バッテリー
2. マイナス（黒）端子
3. プラス（赤）端子
4. バッテリーストラップ

ライダーシートを取り外します。

バッテリーストラップを外します。

最初にマイナス（黒）の方からバッテリーのリード線を外します。

バッテリーをケースから出してください。

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してください。

バッテリーの整備

乾いた清潔な布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管だけしている場合に電圧チェックや定期的な充電が必要です。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

バッテリーの放電

⚠ 注意

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

整備と調整

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール (ECM) メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

モーターバイクから外してあるバッテリーやほとんど乗らないモーターバイクのバッテリーの整備

モーターバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモーターバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーの充電を行ってください (109 ページ参照)。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化が発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされていません。

バッテリーを常にフルに充電しておく、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

⚠ 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します；火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸 (バッテリー液) が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

⚠ 注意

充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が 12.7 V 以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。必ずバッテリー充電器のメーカーの指針に従ってください。

整備と調整

長期（2週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

バッテリーの取り付け

⚠ 警告

バッテリーの端子が、モーターバイクのフレームに触れないように気をつけてください。ショート起こしたり火花が生じてバッテリーのガスに引火し、人身事故を招く恐れがあります。

バッテリーをバッテリーケースに入れます。

プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

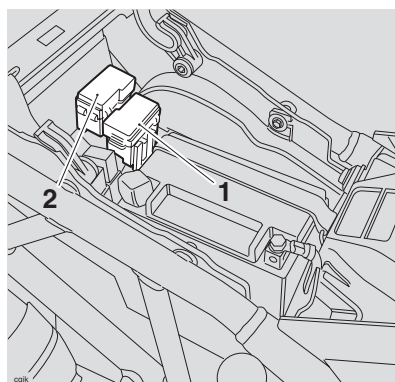
腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。

プラスの端子に保護キャップをかぶせます。

バッテリーストラップを再び取り付けます。

ライダーシートを再装備します。

ヒューズボックス



1. フロントヒューズボックス

2. リアヒューズボックス

ヒューズボックスはライダーシートの下にあります。

ヒューズボックスにアクセスするには、ライダーシートを取り外す必要があります。

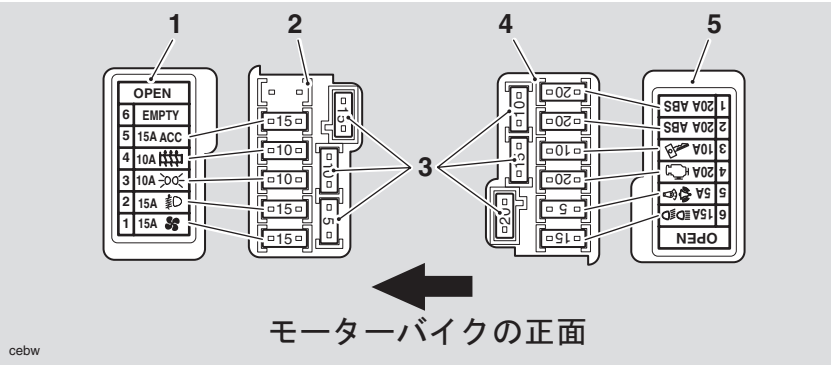
⚠ 警告

ヒューズが切れた時は、必ず正しい定格（ヒューズボックスのカバーに明記されているとおり）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。適切でないヒューズを使うと、電装系統がトラブルを起こす可能性があり、モーターバイクに損傷を与えて制御不能に陥らせ、事故を招く恐れがあります。

ヒューズの識別

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。ヒューズ切れを点検する際、表を参考にしてどのヒューズが切れたかを突き止めてください。

表に記載されているヒューズ識別番号は、ヒューズボックスカバーに印刷されている番号と以下のように対応しています。スペアヒューズはメインヒューズに対して直角に置かれており、スペアヒューズを使ったら補充してください。



1. フロントヒューズボックスカバー

2. フロントヒューズボックス

3. スペアヒューズ
4. リアヒューズボックス

5. リアヒューズボックスカバー

フロントヒューズボックス

保護回路	位置	定格 (アンペア)
冷却ファン	1	15
アクセサリライト	2	15
副灯	3	10
ヒートグリップ	4	10
アクセサリソケット	5	15
不使用	6	-

リアヒューズボックス

保護回路	位置	定格 (アンペア)
ABS	1	20
ABS	2	20
アラーム、計器類、ECM	3	10
エンジン管理	4	20
アラーム、診断コネクター、計器類	5	5
ディップおよびメインビームヘッドライト、スターターリレー	6	15

整備と調整

注記：

- ・ スターターソレノイドには予備の 30 アンペアヒューズがあり、ライダーシートの下にあるソレノイドに直接取り付けられています。

ヘッドライト

ヘッドライト

警告

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、路面の前方を十分遠くまで照らせるようビームを調整してください。ヘッドライトが正しく調整されていないと、視界が損われて事故を招く恐れがあります。

警告

走行中には絶対ヘッドライトビームを調整しないでください。

走行中にヘッドライトビームの調整を試みた場合、バランスを崩して事故を引き起こしかねません。

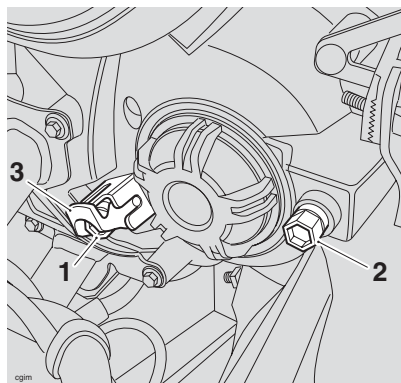
注意

定められたコースでモーターバイクを運転する場合、目につくヘッドライト外面にテープを貼るように言われます。

テープを貼ると、ヘッドライトの外面が熱を帯びてゆがみます。ヘッドライトが変形しないようにするため、定められたコースで運転する時にテープを貼る際、必ずヘッドライトを切ってください。

ヘッドライトの調整

各ヘッドライトは、それぞれのヘッドライト裏側の上下調整用ネジと左右調整用ネジで調整できます。加えて、ヘッドライトには簡単に利用できるアジャスターが装着されており、モーターサークルが最大積載時に、上下方向の調整を修正することができます。



1. 左右調整用ネジ
2. 上下調整用ネジ
3. 積載時用ヘッドライトアジャスターレバー

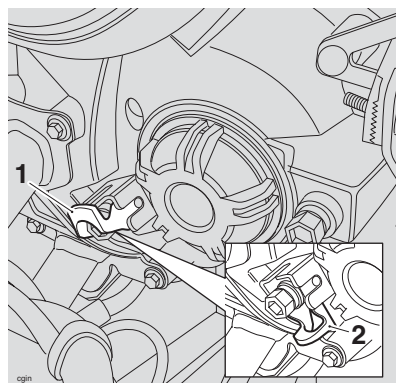
ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ヘッドライトの上下調整用ネジを、ビームを上げるには時計回りに、下げるには反時計回りに回します。

ビームを右に向けるには左右調整用ネジを時計回りに、ビームを左に向けるには反時計回りに回します。

ビーム設定を終えたら、ヘッドライトのスイッチを切ります。

積載時用ヘッドライト調整レバー



1. ヘッドライトアジャスターレバー
(空車時の位置)
2. ヘッドライトアジャスターレバー
(積載時の位置)

正常な状態（空車状態）では、ヘッドライトのアジャスターレバーは水平位置 (1) にあります。

積載状態では、ヘッドライトアジャスターが (2) の位置で止まるまで下側に向かって回します。これでヘッドライトのビームが下方へ約 2° 調整されます。

整備と調整

ヘッドライトバルブの交換

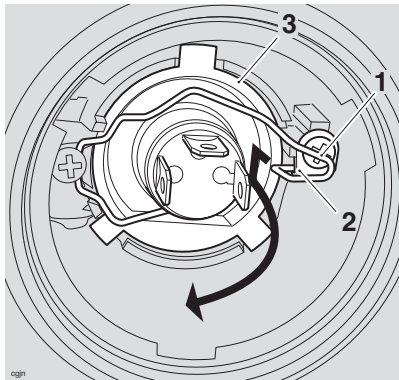
⚠ 注意

認可されていないヘッドライトバルブを使用すると、ヘッドライトレンズを損傷する恐れがあります。

Triumph パーツカタログに掲載されている、Triumph 供給の純正ヘッドライトバルブを使用してください。

ヘッドライトバルブの交換は、必ず正規 Triumph ディーラーに依頼してください。

バルブを交換する際、ヘッドライトを取り外す必要はありません。



1. バルブリテーナー（図は右側）
2. バルブリテーナーフック
3. バルブ

⚠ 警告

バルブは使用中に熱くなります。必ず、バルブが冷えるまで十分時間をかけてから、扱ってください。バルブのガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

バルブ交換：

ライダーシートを取り外します。

最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。

バルブカバーを反時計回りに回して、交換するバルブから取り外します。

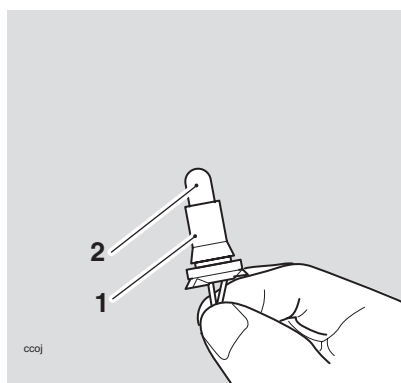
バルブからマルチプラグを抜きます。

ヘッドライトアッセンブリーのフックからバルブリテーナーを外し、図のようにバルブを避けて回転させます。

バルブリテーナーからバルブを外します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行いません。

ポジションランプバルブの交換



1. バルブホルダー
2. ポジションランプバルブ

ポジションランプはヘッドライトの中央に取り付けられています。バルブを交換するには、4個の固定具を外し、ヘッドライトの周囲のものを取り外し、ゴム製リテーナーをヘッドライトから分離させてバルブを引っ張り出します。

取り付けは、取り外した時と逆の手順で行ないます。

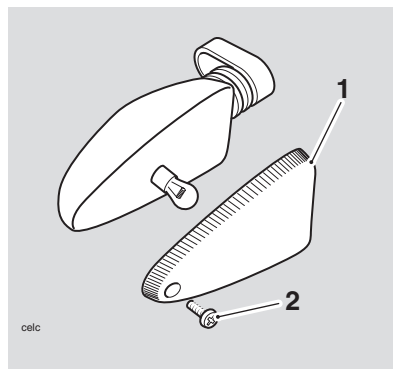
リアライトライセンスプレートライト

リアライト／ライセンスプレートライトの交換

リアライトユニットは、密封してある整備不要の発光ダイオードユニットです。ライセンスプレートライトはリアライトユニットに不可欠です。

方向指示灯

バルブの交換



1. インジケーターレンズ
2. 固定ネジ

インジケーターライトのレンズは、ライトのレンズに付いているネジで固定されています。

ネジを緩めてレンズを取り外し、バルブ交換作業を行います。

整備と調整

洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。

クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。

イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗剤布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗剤布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- ・ 計器類
- ・ ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- ・ 燃料タンクの下
- ・ ヘッドストックベアリング
- ・ ライダーシート下の吸気ダクト

⚠ 注意

吸気ダクトに吹きつけた水がエアボックスとエンジンに浸入し、損傷を与える可能性があります。

⚠ 注意

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機を使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

整備と調整

注記：

- ・ アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。

洗車後

ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。

ピボット、ボルト、ナット類に注油します。

モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。

エンジンを始動させ、5分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。

乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

！ 警告

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

シートケア

！ 注意

シートのクリーニングに、化学薬品や高圧スプレー洗浄機を使用することは好ましくありません。化学薬品や高圧洗浄機は、シートカバーに損傷を与える恐れがあります。

外観を保つため、石鹸と水を含ませたスポンジまたはクリーニング用の布で、シートを洗浄してください。

塗装されていないアルミニウム部品

一部モデルのブレーキやクラッチレバー、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨーク等は、適切に清掃して外観を保つ必要があります。モーターサイクルの未塗装アルミニウムコンポーネントがどれか分からない場合は、正規販売店にお問い合わせください。

研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。

アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。

整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。

整備と調整

注記：

- ・ 水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。

洗浄

水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られる強アルカリ性洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。

柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。

排気装置を徹底的にすすいでください。

サイレンサーに石鹼水や水が入らないようにしてください。

乾燥

排気装置を柔らかい布で拭いて、できる限り水分を取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。水滴の跡が残ります。

保護

排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect」を表面にすり込みます。



注意

研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

保管

保管前の準備

モーターバイクを完全に清掃し、乾燥させます。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。



警告

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火災や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴 (5 cc) 垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、**12 Nm** のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します (79 ページ参照)。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします (125 ページ参照)。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。(これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください)

塗装されていない金属面に防錆油 (市場には多くの製品が出回っているため、貴地の代理店に問い合わせてください) をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します (89 ページを参照)。

冷却装置は、クーラント (Triumph 提供の HD4X ハイブリッド OAT クーラントは、事前に混合してあるので希釈は不要です) と蒸留水を 50% ずつ混合した溶液で充填します (81 ページ参照)。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電 (1 アンペア以下) してください (107 ページ参照)。

モーターバイクは、ひんやりとして乾燥し、直射日光が射さず、一日の温度変化が小さい場所に保管します。

モーターバイクにカバーをかけ、ほこりやごみが積もらないように適切な多孔性カバーをしてください。プラスチックのような通気性のない、熱や湿気のこもりやすい材質の被覆が施された材質の物は避けてください。

保管

保管後の走行準備

バッテリーを再度取り付けます（110ページ参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモーターバイクの場合、エンジンオイルを交換してください（79ページ参照）。

日常の安全点検の項に記載されている項目をすべてチェックします。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し **12 Nm** のトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（125ページ参照）。

車体全体をくまなくきれいにします。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
寸法		
全長.	2, 215 mm	2, 215 mm
全幅.	795 mm	865 mm
全高.	1, 350 mm	1, 390 mm
軸間距離.	1, 530 mm	1, 545 mm
シート高.	813 mm	847 mm
重量		
ウェットウエイト.	210 kg	215 kg
最大車載重量.	225 kg	223 kg
エンジン		
タイプ.	直列 3 気筒	直列 3 気筒
排気量.	800 cc	800 cc
ボア x ストローク.	74 x 61.94 mm	74 x 61.94 mm
圧縮比.	11.1:1	11.1:1
シリンダナンバー.	左から右へ	左から右へ
シリンダーの順番.	1 は左側	1 は左側
点火順.	1-2-3	1-2-3
始動方式.	電動スターター	電動スターター

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
性能		
最大出力 (DIN 70020)	70 kW/9,300 rpm (95 PS/94 bhp)	70 kW/9,300 rpm (95 PS/94 bhp)
最大トルク	79 Nm/7,850 rpm	79 Nm/7,850 rpm
潤滑		
潤滑	圧力注油 (ウェット サンブ方式)	圧力注油 (ウェット サンブ)
エンジンオイル容量		
ドライフィル	4.1 リッター	4.1 リッター
オイル / フィルター交換	3.6 リッター	3.6 リッター
オイル交換のみ	3.4 リッター	3.4 リッター
クーリング		
クーラントタイプ	Triumph HD4X ハイブ リッド OAT クーラ ント	Triumph HD4X ハイブ リッド OAT クーラ ント
水 / 不凍剤比	50 対 50 (Triumph が 事前に混合して提 供)	50 対 50 (Triumph が 事前に混合して提 供)
クーラント容量	2.4 リッター	2.4 リッター
サーモスタットオープン (公称) . .	71° C	71° C

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
燃料システム		
タイプ	電子燃料噴射	電子燃料噴射
インジェクター	ソレノイド操作式	ソレノイド操作式
燃料ポンプ	サブマージ式電動	サブマージ式電動
燃料圧 (公称)	3 バール	3 バール
燃料		
タイプ	無鉛 91 RON	無鉛 91 RON
タンク容量 (モーターサイクル直立)	19.0 リッター	19.0 リッター
イグニッション		
点火装置	デジタル誘導式	デジタル誘導式
電子レブリミター (r/min)	10,000 (r/min)	10,000 (r/min)
スパークプラグ	NGK CR9EK	NGK CR9EK
スパークプラグギャップ	0.7 mm	0.7 mm
ギャップトレランス	+0.05/-0.1 mm	+0.05/-0.1 mm

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
トランスミッション		
トランスミッションタイプ	6 速、常時噛合式	6 速、常時噛合式
クラッチタイプ	湿式多版	湿式多版
ファイナルドライブチェーン	DID O リング、 120 環分	DID O リング、 122 環分
プライマリドライブ比	1.667:1 (85/51)	1.667:1 (85/51)
ギア比：		
ファイナルドライブ比	3.125:1 (50/16)	3.125:1 (50/16)
1 速	2.313:1 (37/16)	2.313:1 (37/16)
2 速	1.857:1 (39/21)	1.857:1 (39/21)
3 速	1.500:1 (36/24)	1.500:1 (36/24)
4 速	1.285:1 (27/21)	1.285:1 (27/21)
5 速	1.136:1 (25/22)	1.136:1 (25/22)
6 速	1.043:1 (24/23)	1.043:1 (24/23)

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
タイヤ		
タイヤサイズ：		
フロントサイズ.	100/90 - 19	90/90 - 21
リアサイズ.	150/70 - 17	150/70 - 17
オンロード用タイヤ空気圧 (冷間時)：		
フロント.	2.5 バール (36 lb/in ²)	2.5 バール (36 lb/in ²)
リア.	2.9 バール (42 lb/in ²)	2.9 バール (42 lb/in ²)

警告

推奨されたタイヤだけを指定の組み合わせで使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。混用すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

	Tiger 800	Tiger 800XC
ロード用認可タイヤ：		
オプション1、フロント.	Pirelli Scorpion Trail	Bridgestone Battle Wing BW501 G
オプション1、リア.	Pirelli Scorpion Trail	Bridgestone Battle Wing BW502
オプション2、フロント.		Pirelli Scorpion Trail
オプション2、リア.		Pirelli Scorpion Trail

仕様

⚠ 警告

兼用タイヤを使用すると、モーターサイクルの安定性が低下します。兼用タイヤを取り付けた場合は、必ずモーターサイクルの速度を落として走行してください。許容最高速度が（以下に示すとおり）ステッカーに表示されていなければならない、ライダーからはっきりと見えるように貼りつけてなければなりません。許容最高速度を超えてモーターサイクルを運転すると、モーターサイクルが制御不能に陥り事故を招く恐れがあります。

Tiger 800 のみ

認可兼用タイヤ（オフロードおよびオンロード用）*

オプション 2、フロント Metzeler MCE
Karoo 2 (T)

オプション 2、リア Metzeler MCE
Karoo (T)

* 兼用タイヤの許容最高速度は 96 km/h です。

⚠ 警告

タイヤ空気圧がオフロード走行によって低下すると、オンロードでの安定性が損なわれます。125 ページ記載されているようにオンロード用のタイヤ空気圧に設定してください。

タイヤ空気圧が不適切なままでモーターサイクルを運転すると、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

Tiger 800 のみ

オフロード用タイヤ空気圧 (冷間時) :

フロント 1.5 バール
(22 lb/in²)

リア 1.5 バール
(22 lb/in²)

仕様

	Tiger 800	Tiger 800XC
電装品		
バッテリータイプ	YTX-16BS	YTX-16BS
バッテリー定格	12 V, 14 Ah	12 V, 14 Ah
オルタネーター	時 12 V、41.5 A 4,000 rpm	時 12 V、41.5 A 4,000 rpm
ヘッドライト	2 x 12 V 55/60 W H4 ハロゲン	2 x 12 V 55/60 W H4 ハロゲン
テール / ブレーキライト	LED	LED
方向指示灯	12 V、10 W	12 V、10 W
フレーム		
すくい角	23.9°	24.3°
トレール	92.4 mm	95.3 mm

仕様

	全モデル
締付トルク	
オイルフィルター	10 Nm
オイルドレンプラグ	25 Nm
スパークプラグ	12 Nm
リアホイールスピンドル	110 Nm
チェーンアジャスターロックナット . .	20 Nm
フルードと潤滑剤	
エンジンオイル	API SH（またはそれ以上）と JASO MA 仕様に かなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターサイクル用 エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成）
ブレーキクラッチフルード	DOT 4 ブレーキクラッチフルード
クーラント	Triumph HD4X ハイブリッド OAT クーラ ント
ベアリングとピボット	NLGI 2 仕様を満たしたグリース
ドライブチェーン	0 リングチェーンに適したチェーンスプ レー

索引（あいうえお順）

索引（あいうえお順）

アクセサリ	67	計器盤	
安全	5	スピードメーター	22
整備 / 装備	8	タコメーター	22
駐車	7	単位変更	26
日常点検	52	時計の調節	25
燃料と排気ガス	6	トリップメーター	23
ハンドルとフットレスト	9	警告	
部品とアクセサリ	7	警告・注意・注記	1
ヘルメットと防護服	6	警告ラベル	2
モーターバイク	5	警告ラベルの位置	10
ライディング	8	警告灯	32
イグニッション	123	高速走行の際の注意	64
キー	35	シートロック	46
スイッチ / ステアリングロック	36	締付トルク	128
エンジンの始動	56	車体識別番号	17
エンジンの停止	56	重量	121
仕様	121	潤滑	122
シリアル番号	17	スタンド	45
エンジンオイル	78	サイドスタンド	45
オイルとオイルフィルター		ステアリング / ホイールベア	
の交換	79	リング	97
オイルとフィルターの処分	80	点検	97
オイルレベルの点検	78	スロットルコントロール	84
等級と仕様	81	タイヤ	101
ギア		タイヤ空気圧	103
クラッチ	87	タイヤの交換	105
調整	88	タイヤの磨耗	104
点検	87	トレッドの最小深度	104
クリーニング	116	寸法	121
乾燥	118	性能	122
準備	116	ツールキット	44
洗車後	117	電装品	127
洗浄	118	ドライブチェーン	88
注意すべき部分	116	潤滑	89
塗装されていないアルミニウ		たるみ調整	90
ム部品	117	たるみ点検	89
排気装置	117	磨耗点検	91
保護	118		

索引（あいうえお順）

トランスミッション	124	フレーム	127
慣らし運転	51	フロントガラスの清掃	96
燃料	123	フロントサスペンション	98
燃料システム	123	フォークの点検	98
燃料の条件	42	ヘッドライト	112
燃料タンクへの給油	44	調整	113
燃料の等級	42	バルブの交換	114
フューエルタンクキャップ	43	方向指示灯	115
バッテリー	107	保管	
充電	109	保管後の走行準備	120
処分	108	保管前の準備	119
整備	108	右ハンドルスイッチ	39
取り付け	110	エンジンストップスイッチ	39
取り外し	108	ライセンスプレートライト	115
左ハンドルスイッチ	40	ライダーシート	47
パスボタン	40	リアサスペンション	
ヘッドライトディップスイッチ	40	スプリングプリロード	100
ホーンボタン	40	伸側減衰	100
方向指示器スイッチ	40	リアサスペンション設定値表ー	
ヒューズボックス	110	Tiger 800XC	99
部品の名称	12	リアサスペンション設定値表ー	
フルードと潤滑剤	128	Tiger 800 のみ	99
ブレーキ	92	リアサスペンションの調整	99
ディスクブレーキフルード	93	リアシート	46
パッドの磨耗補正	93	リアライト	115
ブレーキ操作	59	冷却装置	81
ブレーキとクラッチレバーア		クーラントレベルの点検	82
ジャスタ	38	交換	83
磨耗点検	92	腐食防止剤	81
ライトスイッチ	95	レベルの調整	83